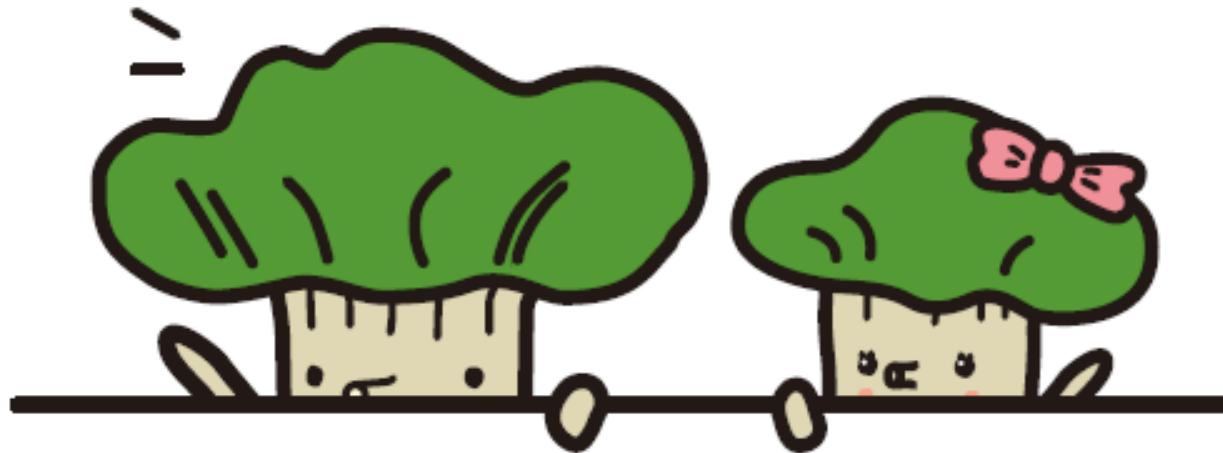


2021年度3月期 決算

決算概況と今後の事業展開について



つなぐを化学する
荒川化学工業株式会社

目次

1 第4次中期5カ年経営計画の実績について

2 決算概況と今期予想

3 セグメント別情報

4 事業と製品

5 第5次中期5カ年経営実行計画について

6 サステナビリティへの取り組み

参考資料

1

第4次中期5カ年経営計画の実績について

第4次中期5カ年経営計画について

Dramatic **SHIFT 1**

永続的な成長のため、劇的な経営資源の再配置や最適化により、事業の変革を実現し、全社“**1**”丸となって真のグローバル化を目指す
(2016年度～2020年度)

1

SHIFT 実現体制の構築

2

事業の新陳代謝の実践

3

真のグローバル化とガバナンス体制強化

業績目標の達成状況

(百万円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 実績	5カ年 増減率	2020年度 目標
売上高	79,119	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	△10.8 %	100,000
営業利益	3,639	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	△10.5 %	5,800
経常利益	3,851	5,314	5,218	3,950	2,927	3,652	△5.2 %	6,000
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,311	3,416	3,111	3,890	1,732	2,169	△6.2 %	3,700
ROE	5.0 %	7.1 %	6.0 %	7.1 %	3.2 %	4.0 %	-	≥6.5 %

計数目標未達の主な要因

富士工場爆発・火災事故

米中貿易摩擦

水素化石油樹脂第3拠点選定・ASEANにおける
紙力増強剤の新拠点選定の時期ずれ

新型コロナウイルス感染症の拡大など

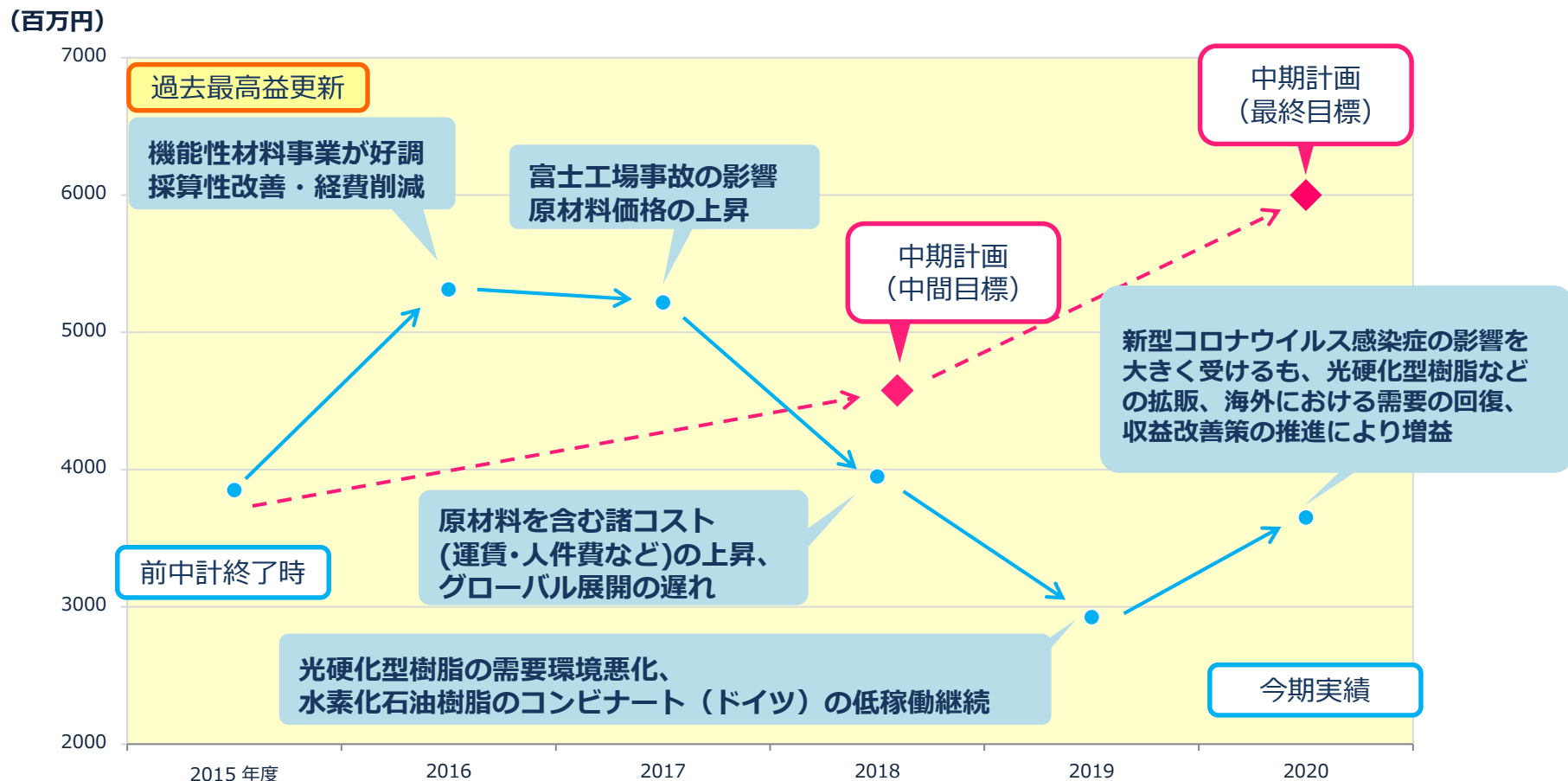
セグメント別の達成状況

(百万円)

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 実績	5カ年 増減率	2020年度 目標
製紙薬品	売上高	19,841	18,252	19,839	21,295	18,912	17,104	△13.8 %	25,000
	セグメント利益	1,305	1,278	934	366	346	565	△56.7 %	1,700
コーティング	売上高	20,502	19,391	19,150	18,049	16,092	15,518	△24.3 %	23,000
	セグメント利益	866	1,116	1,105	1,051	973	1,324	53.0 %	1,300
粘接着	売上高	27,397	28,280	29,920	27,698	25,836	25,433	△7.2 %	36,000
	セグメント利益	1,859	2,540	2,477	1,751	1,048	1,344	△27.7 %	2,700
機能性材料	売上高	11,086	11,173	11,607	12,192	11,848	12,252	10.5 %	16,000
	セグメント利益	△155	561	619	632	385	528	-	1,100
その他	売上高	291	282	265	266	277	263	△9.6 %	-
	セグメント利益	13	16	24	26	31	26	95.8 %	-
合計	売上高	79,119	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	△10.8 %	100,000
	セグメント利益	3,889	5,512	5,162	3,828	2,786	3,789	△2.6 %	6,800

進捗状況（経常利益）

様々な要因により、第4次中計の計数目標は未達



重点施策・真のグローバル化

市場・戦略	国	製品	施策状況
A S E A Nでの 板紙需要の拡大に対応	ベトナム	紙力増強剤	2019年12月 荒川ケミカルベトナム社設立 2021年中の稼働に向けて準備中
中国での顧客ニーズに スピーディーに対応	中国	精密部品洗浄剤	2019年6月 洗浄実験室を有する東莞分公司を開設 新規販売先の獲得を推進中
グローバル需要への対応 原料からの一貫生産体制	日本	水素化石油樹脂	新プラントが完成 夏頃の稼働に向けて準備中

建設中の荒川ケミカルベトナム社



完成した水素化石油樹脂製造プラント（千葉）



2

決算概況と今期予想

連結業績と今期予想

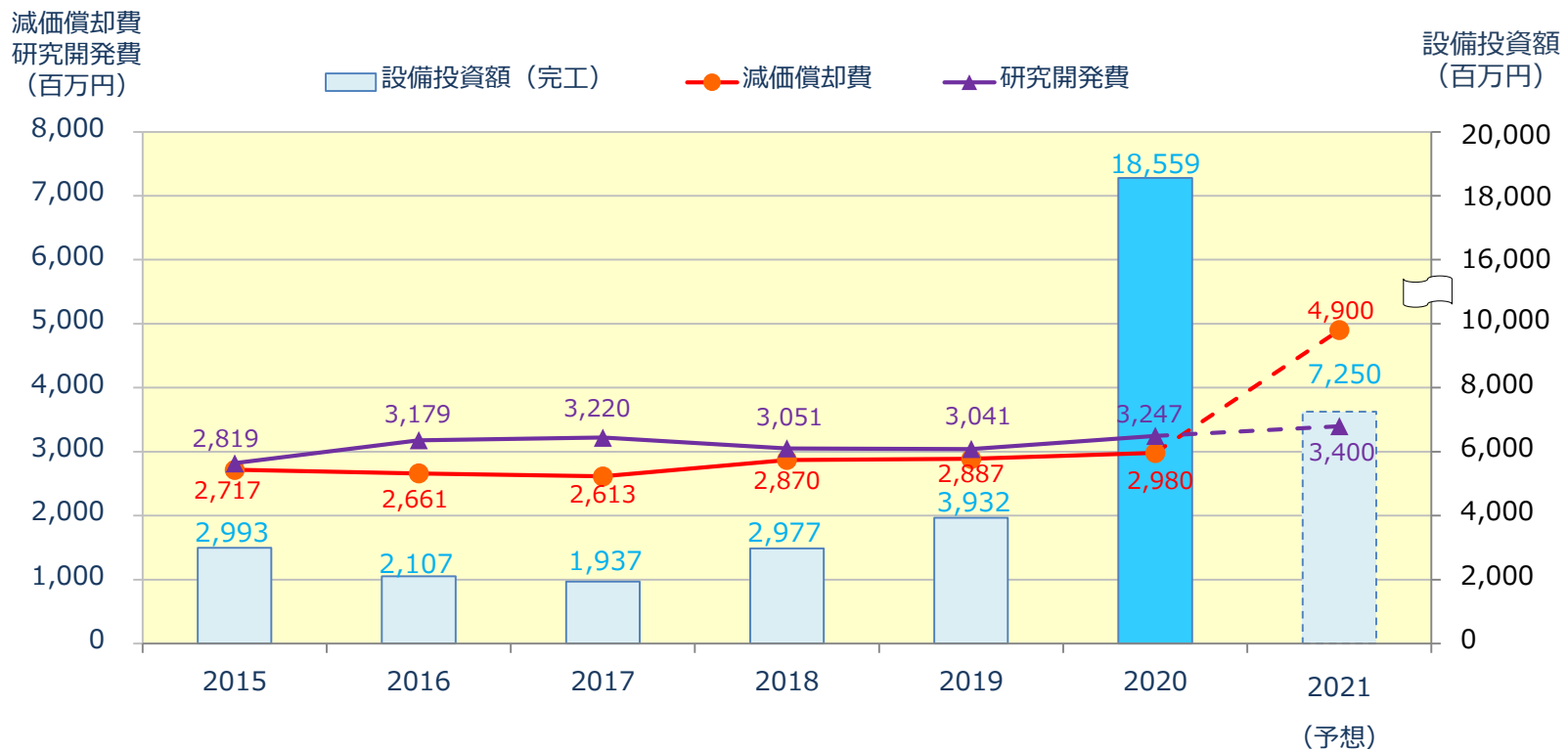
上段：百万円 下段：増減率	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (予想)
売上高	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	77,000
	△2.2 %	4.4 %	△1.6 %	△8.2 %	△3.3 %	9.1 %
営業利益	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	2,200
	40.0 %	△4.0 %	△27.1 %	△27.8 %	26.5 %	△32.5 %
経常利益	5,314	5,218	3,950	2,927	3,652	1,900
	38.0 %	△1.8 %	△24.3 %	△25.9 %	24.8 %	△48.0 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,416	3,111	3,890	1,732	2,169	1,450
	47.8 %	△8.9 %	25.0 %	△55.5 %	25.3 %	△33.2 %
EBITDA	7,757	7,506	6,435	5,461	6,237	7,100
	22.0 %	△3.2 %	△14.3 %	△15.1 %	14.2 %	13.8 %
ROE	7.1 %	6.0 %	7.1 %	3.2 %	4.0 %	2.5 %

【2021年度】為替レート的前提条件 ① 1 USD = 108円 ② 1 EUR = 125円

設備投資および研究開発費

2021年度見通し

- ・ 設備投資：ファインケミカルや荒川ケミカルベトナム社への設備投資を予定していることから、72億50百万円となる見込み
- ・ 減価償却：千葉アルコン製造の償却費計上を見込むことから、49億円となる見込み



3

セグメント別情報

セグメント組み換え（2021年度より）

旧セグメント

製紙薬品事業

サイズ剤

紙力増強剤

コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

合成ゴム重合用乳化剤

粘接着事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

シリコーン樹脂

機能性材料事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

ファインケミカル

電子材料用配合製品

精密研磨剤

印は、主に
ロジン系製品

印は、主に
超淡色ロジン
系製品

新セグメント

機能性コーティング事業

機能性コーティング剤

印刷インキ・塗料用樹脂

シリコーン樹脂

製紙・環境事業

紙力増強剤

サイズ剤

粘接着・バイオマス事業

水素化石油樹脂

粘着・接着剤用樹脂 など

合成ゴム重合用乳化剤

ファイン・エレクトロニクス事業

精密部品洗浄剤 など

低誘電ポリイミド樹脂

ファインケミカル

電子材料用配合製品

精密研磨剤

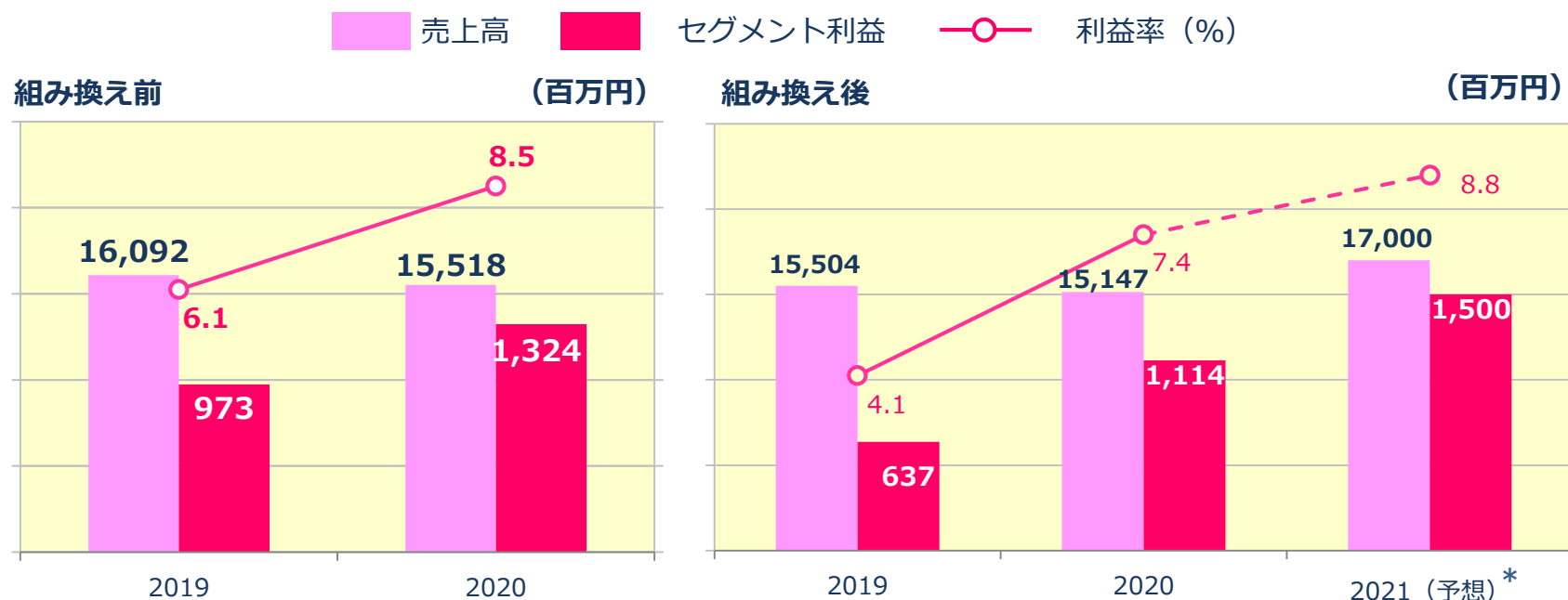
減収増益

コーティング事業⇒機能性コーティング事業

- 新型コロナウイルス感染症により印刷インキ用樹脂や塗料用樹脂などの販売が大幅に減少
- 機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂は5G関連分野での販売が好調

2021年度見通し

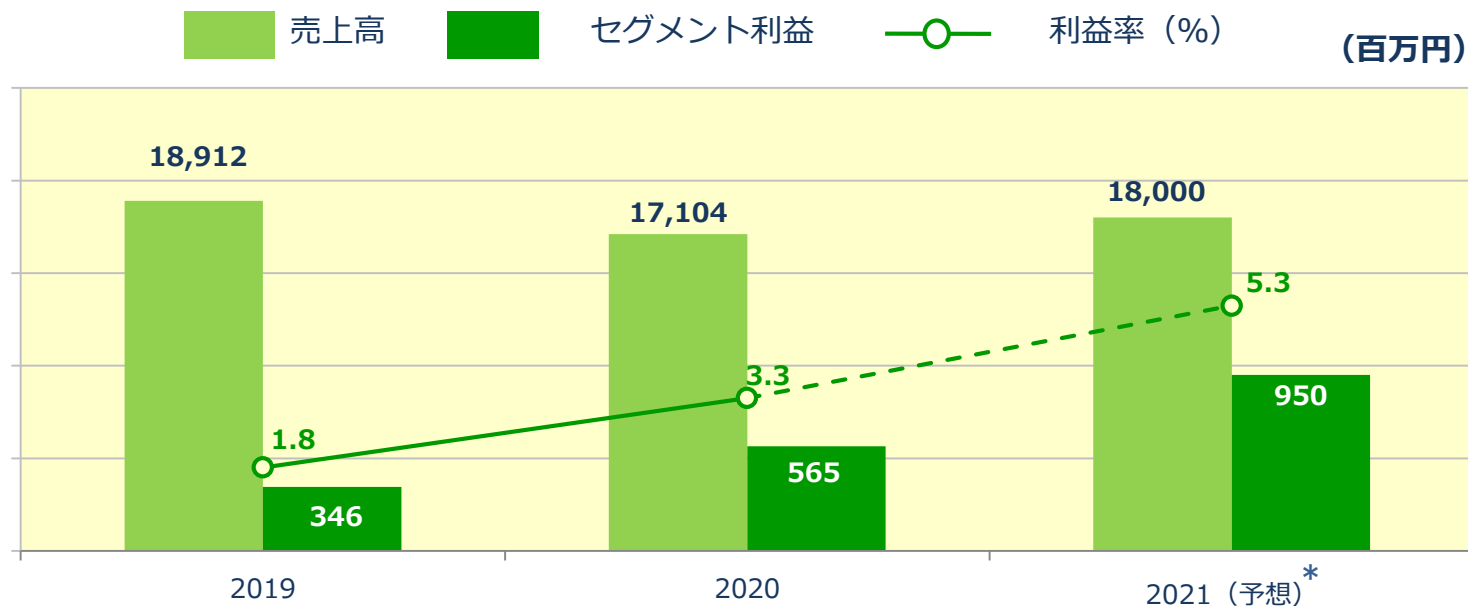
- 光硬化型樹脂の需要は5G関連分野や自動車関連分野の好調が継続
- 印刷インキ用樹脂・塗料用樹脂などで需要減少からの反動が一部で見込まれる



- 新型コロナウイルス感染症の影響により、サイズ剤などの販売が大幅に減少も、紙力増強剤は下期以降、中国などのアジアで回復

2021年度見通し

- 中国やASEANで紙力増強剤の需要増加、国内の収益性改善などが見込まれる



* 2021年度予想は新収益認識基準を想定した数値を記載

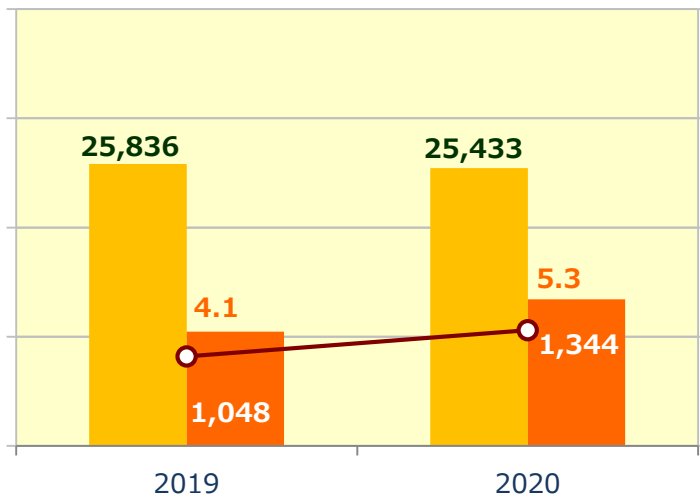
- 中国でのロジン系粘着・接着剤樹脂の販売がいち早く回復し、好調に推移
- 水素化石油樹脂は市場における需給バランスの軟化などに伴う市況の低迷があったが、過年度におけるドイツのコンビナート停止に伴うコスト上昇の影響は緩和された

2021年度見通し

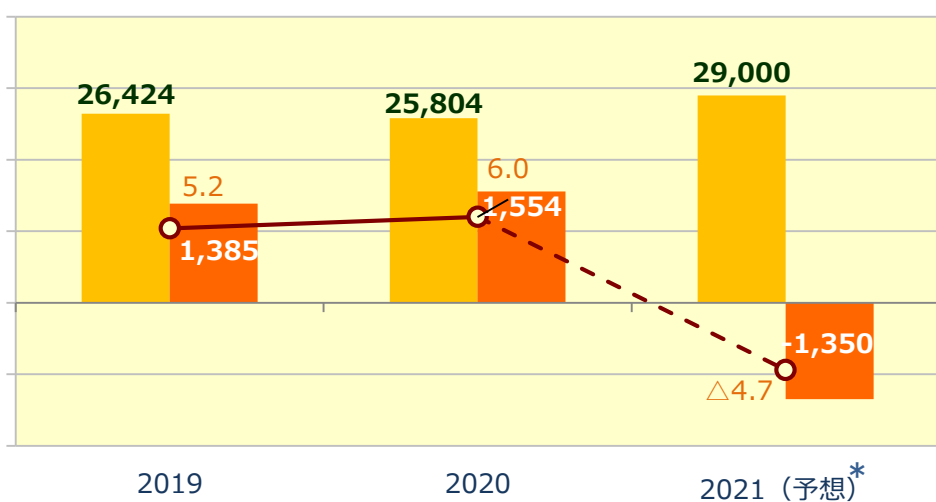
- 自動車関連分野を中心に粘着・接着剤用樹脂の需要が回復も、千葉アルコン製造の稼働開始に伴う多額の償却費など計上のためセグメント利益は赤字を見込む

売上高 セグメント利益 利益率 (%)

組み換え前 (百万円)



組み換え後 (百万円)



* 2021年度予想は新収益認識基準を想定した数値を記載

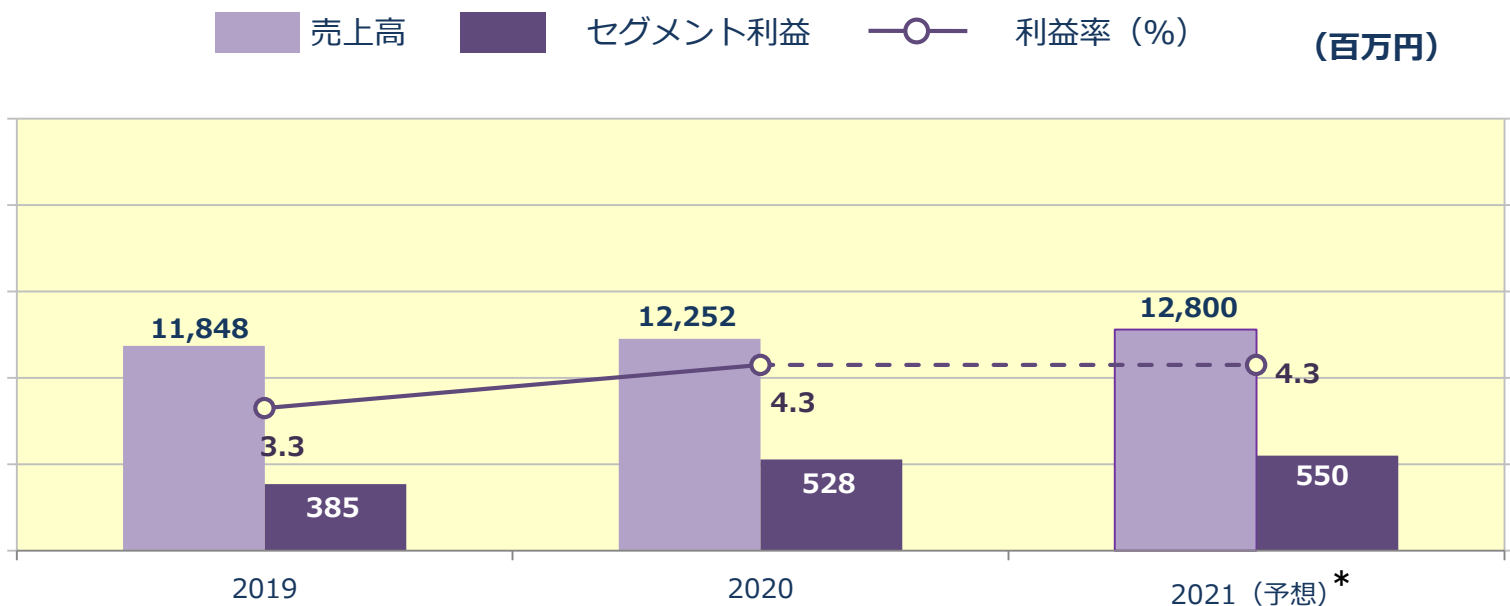
増収増益

機能性材料事業⇒ファイン・エレクトロニクス事業

- 新型コロナウイルス感染症の影響により精密部品洗浄剤などの販売は減少も、電子材料用配合製品は下期に回復
- ファインケミカル製品、精密研磨剤、低誘電ポリイミド樹脂は堅調に推移

2021年度見通し

- 半導体関連などが堅調に推移する見込み

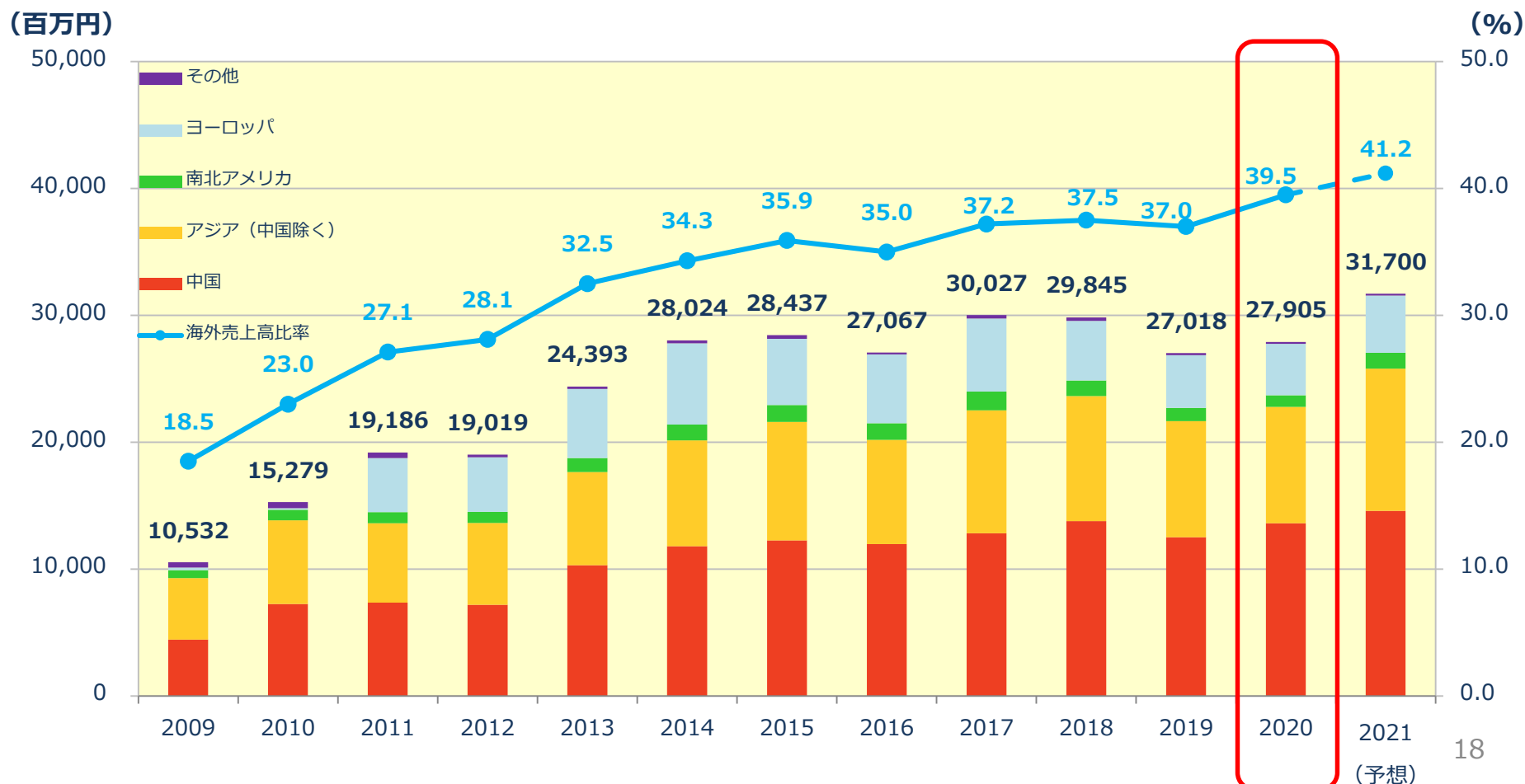


* 2021年度予想は新収益認識基準を想定した数値を記載

海外売上高・比率 推移

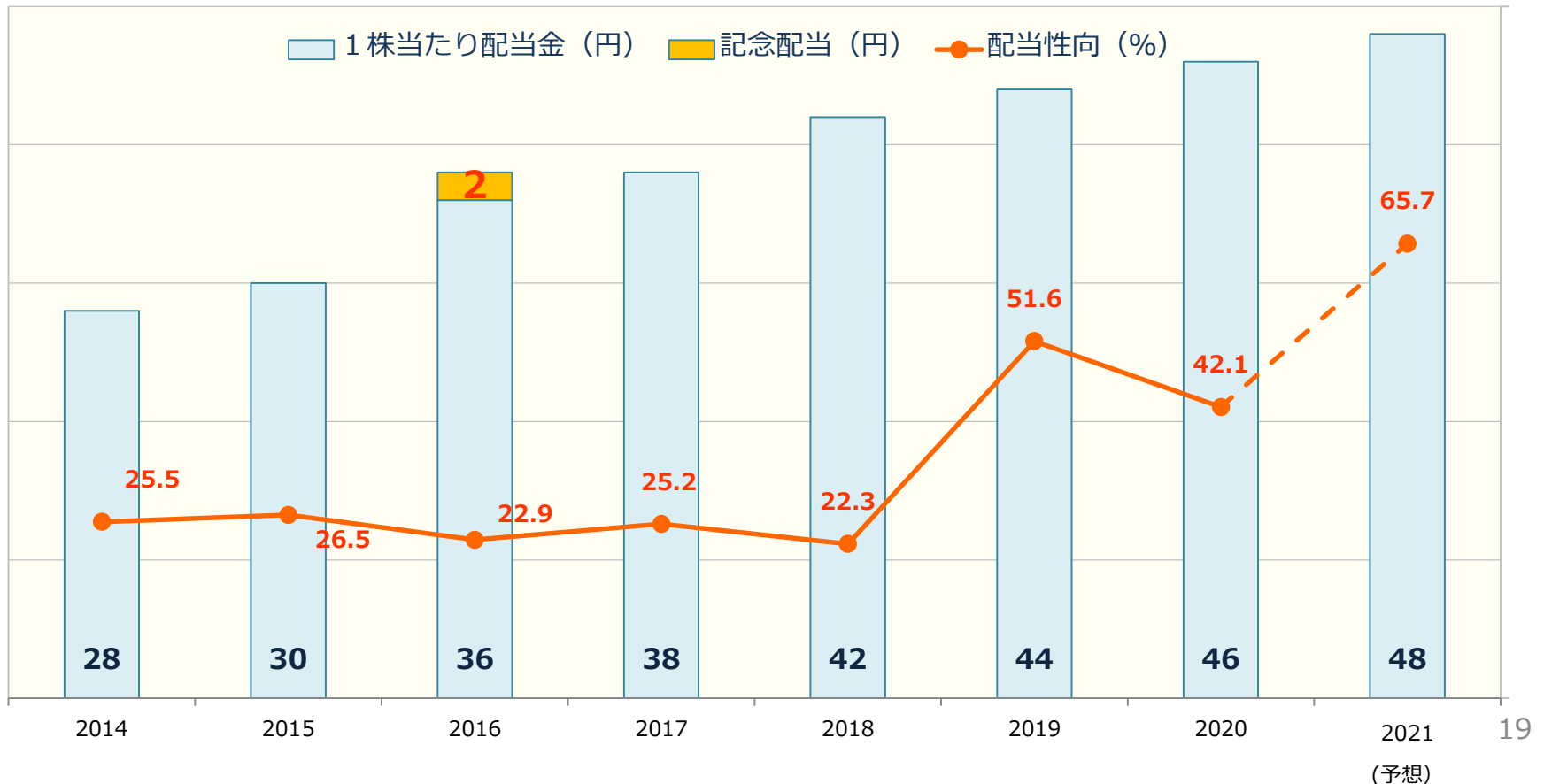
■ 中国を中心とするアジアでの需要回復が寄与し、海外売上高比率は前期の37.0%から39.5%へ上昇

■ 2021年度は、千葉アルコン製造や荒川ケミカルベトナム社での販売拡大を見込む



配当金の推移

- 2021年3月期の期末配当は当初予想から2円増配の1株当たり24円に増配し、中間配当額22円とあわせて年間配当金46円を予定。次期配当については1株あたり年間配当金48円を予定。
- 2021年4月よりスタートしている第5次中期5カ年経営実行計画においては、成長戦略の実現による利益の拡大を通じた配当額の増額と配当性向 **40%** を目標として取り組んでいく



4

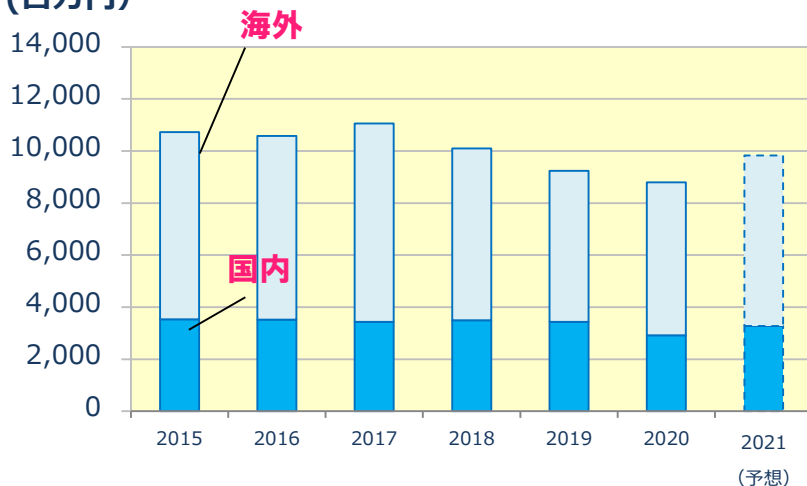
事業と製品

水素化石油樹脂

粘接着・バイオマス

- **世界で初めて工業化に成功**（1965年上市）
- **コスモEHD、丸善石油化学と3社合併で2018年2月に千葉アルコン製造(株)を設立**
新プラントが完工し、夏頃の稼働に向け準備中
⇒ 原料の効率的・安定的調達、一貫生産によるコスト競争力、インフラ有効活用
- **紙おむつ用ホットメルト接着剤で伸長**
⇒ 水島工場・ドイツの生産拠点をあわせた3拠点体制でグローバル需要への対応を進め、ブランド力の維持・強化に努める
- **競合他社の供給能力増強により、ボリュームゾーンでの競争激化**
- **過年度におけるドイツのコンビナート停止に伴うコスト上昇の影響は緩和**

売上高
(百万円)



主な競合他社の動き

企業名	生産能力	稼働開始時期
X社	9万t／年間	2018年
Y社	2.5万t／年間	2020年

* 中国進出企業も数社あり

機能性コーティング剤

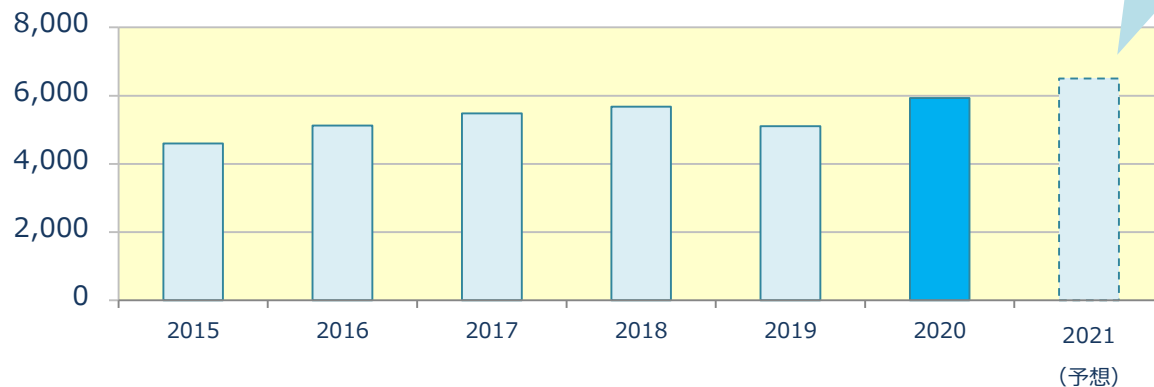
機能性コーティング

- 光で瞬時に固まり、省エネルギー、環境負荷低減（VOC削減）
- 要求特性を実現する樹脂設計と配合技術力
- フィルムコーティングの高機能化に



売上高（百万円）

ビームセット、オプスター（光硬化タイプ）



5G関連と自動車関連分野にて引き続き需要は好調に推移見込み

■ 自動車関連

■ ディスプレイ



■ スマートフォン



■ IC生産工程用

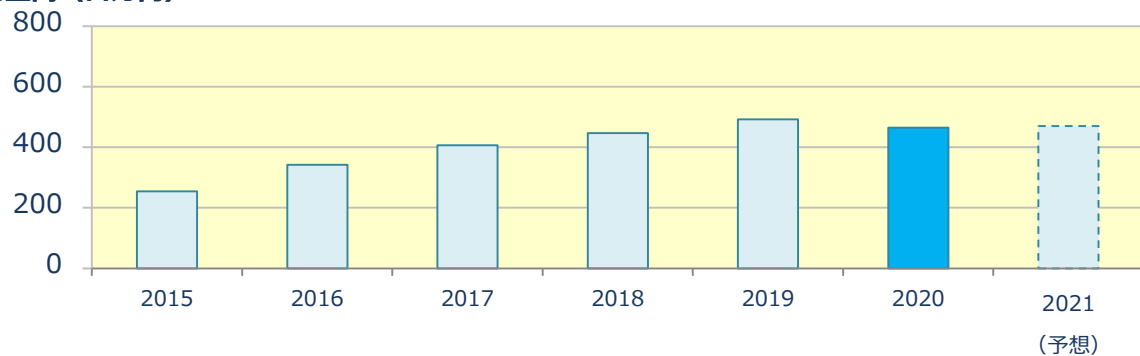
■ インデックスマッチング

■ 印刷インキ・塗料

■ クリアワニス

売上高（百万円）

アラコート（熱硬化タイプ）



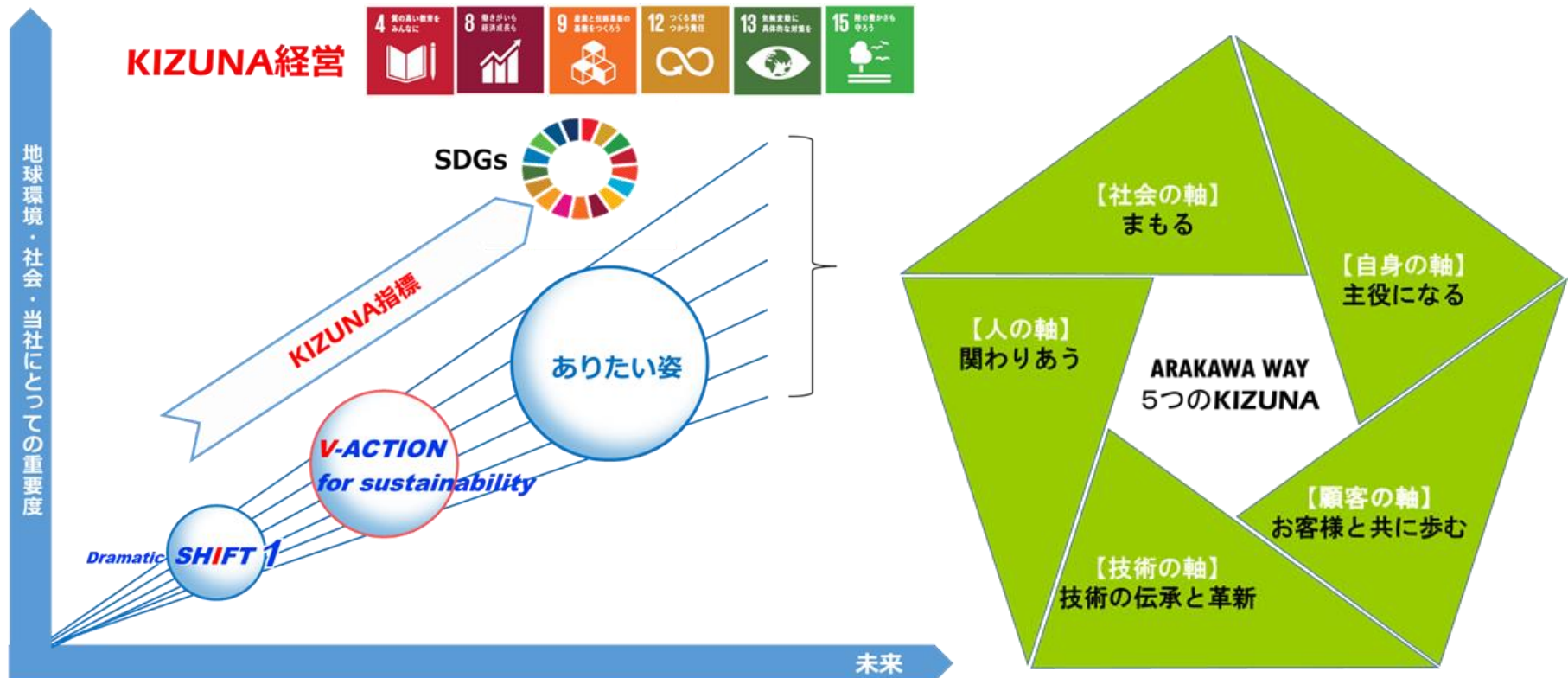
- 帯電防止コーティング剤
- UVコーティング用アンカー剤
- 蒸着用アンカー剤
- 熱硬化型自己修復コーティング剤
- 離型コーティング剤

5 第5次中期5カ年経営実行計画について

基本方針

KIZUNA経営の推進とKIZUNA指標の達成

KIZUNA指標：5つのKIZUNA とリンクした優先的な重要課題から設定した指標
「ありたい姿」を実現するための指標



KIZUNA経営



① サステナビリティ委員会 新設

- ・ 重要課題や関連目標の設定や見直し、進捗状況のモニタリング・評価
- ・ 事業ポートフォリオの見直しや中長期的な経営計画、方向性を決定

② KIZUNA推進室 新設

- ・ 個人と会社がともに成長できる体制や施策を立案
- ・ 5つのKIZUNA共有活動や働きがい改革などを通じて、企業風土の改革を目指す

③ 事業戦略部 新設

- ・ グローバル事業戦略の立案・推進・評価・見直し
- ・ 事業の付加価値を高め、持続可能な成長の実現を目指す

スローガン

V-ACTION *for sustainability*

- ・ Vector 方向・進路（サステナビリティ）
- ・ Value 価値（企業価値）
- ・ Variety 変化・多様性（中計最終時の姿）
- ・ Venture 冒険的事業（みつける）
- ・ Vitality 活力（働きがいと生産性の向上）

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、

持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、

付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

財務目標

(百万円)

	2020年度 ¹⁾	2023年度 目標 ²⁾	2025年度 目標 ²⁾	5 力年 伸長額 ³⁾	5 力年 伸長率 ³⁾	2030年度 目標
売上高	70,572	84,000	90,000	+19,427	+27.5 %	100,000以上
営業利益	3,257	4,500	6,500	+3,242	+99.6 %	10,000以上
経常利益	3,652	4,500	6,500	+2,847	+78.0 %	10,000以上
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,169	3,250	4,500	+2,330	+107.5 %	-
営業利益率(%)	4.6	5.4	7.2	-	-	約10.0
EBITDA (%)	6,237 8.8	9,800 11.7	11,200 12.4	-	-	-

- 1) 新収益認識基準を適用していない2020年度の売上高実績値
 2) 2023年度と2025年度は新収益認識基準を想定した売上高を記載
 3) 新収益認識基準を適用していない2020年度の売上高実績値基準

(参考) 減価償却費	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
連結減価償却費 (予想)	約4,900	約5,800	約5,300	約5,000	約4,700
うち千葉アルコン製造(株)	約1,700	約2,300	約1,800	約1,500	約1,200

財務目標（セグメント別）

（百万円）

		2020年度 実績 ¹⁾	2023年 目標 ²⁾	2025年度 目標 ²⁾	5カ年 伸長率 ³⁾
機能性コーティング事業	売上高	15,147	19,000	20,000	+32.0 %
	セグメント利益	1,114	1,800	2,100	+88.4 %
製紙・環境事業	売上高	17,104	19,000	20,000	+16.9 %
	セグメント利益	565	900	1,250	+121.0 %
粘接着・バイオマス事業	売上高	25,804	30,500	31,000	+20.1 %
	セグメント利益	1,554	1,200	2,100	+35.1 %
ファイン・エレクトロニクス 事業	売上高	12,252	15,000	18,000	+46.9 %
	セグメント利益	528	1,150	1,800	+240.8 %
みつける	売上高	-	200	600	-
	セグメント利益	-	80	280	-
合計	売上高	70,309	84,000	90,000	+28.0 %
	セグメント利益	3,763	5,150	7,550	+100.6 %
	新規開発投資	△377	△650	△850	—
	新規開発投資差引後利益	3,385	4,500	6,700	+97.9 %

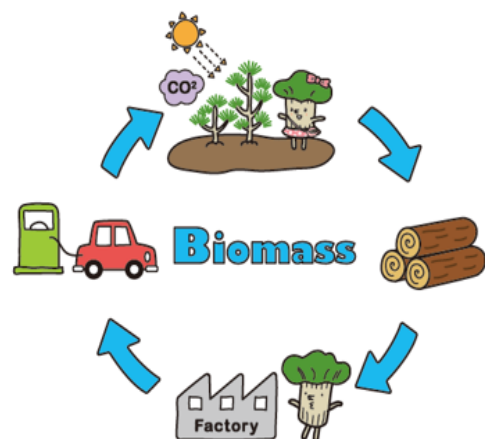
- 1) 新収益認識基準を適用していない2020年度の売上高実績値
2) 2025年度と2025年度は新収益認識基準を想定した売上高を記載
3) 新収益認識基準を適用していない2020年度の売上高実績値基準

6

サステイナビリティへの取り組み

サステナビリティへの取り組み

- サステナビリティ委員会が中心となり、ESG、SDGs、Society5.0、気候変動などの環境問題や、ダイバーシティ & インクルージョンなどを含む社会的課題に対応すべく、様々な事項に取り組んでいく



サプライチェーンの持続性確保

- ・カーボンニュートラル
- ・VOCの低減
- ・植林活動

持続的な価値創出を実現

炭素循環社会の実現

- ・自動車のEV化や軽量化
- ・スマート農業の促進

個々の能力を最大限発揮

- ・キャリア形成支援
- ・ワークライフバランスの最適化
- ・業務プロセス改革



KIZUNA指標

- 2050年CO₂排出量実質ゼロに向けた取り組み
2025年CO₂排出量：**30%削減** 2030年CO₂排出量：**50%削減** (2015年比)

ESGの取り組み

荒川化学グループは経営理念のもと、化学メーカーとして安全・環境配慮を重視した経営を実践し、社会から認められ続ける会社を目指し、145年を歩んでまいりました。

この考えは、国連の2030年目標であるSDGs（貧困、エネルギー、気候変動等の世界の課題に対し17の開発目標を示したもの）にも通じるものです。

当社は**ESG（環境・社会・企業統治）経営**を通し、**SDGs**にも関連付けながら、さらに社会に貢献してまいります。



環境保全や技術開発による取り組み

開発目標

荒川化学が提供する価値



強靱（レジリエント）なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進及
びイノベーションの推進を図る

暮らしの利便性、快適性を高める製品を提供し続け
るための技術開発



* 海洋生分解バイオマスプラスチック開発
プラットフォームへ参画



持続可能な生産消費形態を確保する

具体的な目標を掲げた製品ライフサイクルにおける
化学物質の適正管理、産業廃棄物処理活動



気候変動及びその影響を軽減するた
めの緊急対策を講じる

具体的な目標数値を掲げた温室効果ガス削減活動



次代へつなぐ取り組み

開発目標

荒川化学が提供する価値



すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

「楽しく化学する」を基本に小学生対象の体験学習の実施、若手、中堅社員の海外研修制度、先進国およびその他の開発途上国における高等教育の奨学金制度

国内全社員を皮切りにSDGs eラーニングを順次開始



包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する

イキイキ・ワクワクと働ける環境整備の推進と充実化
ダイバーシティ&インクルージョンの推進
(自ら手をあげた“かがやく分科会”の

有志による活動実施)

▶ **かがやく分科会**
にて提言書を作成

安全文化の醸成活動促進

- ・ **安全担当の取締役を設置**
- ・ **安全基本教育テキストの編纂**
- ・ **外部有識者による安全技術者育成教育講座開講**



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

地域の松林復元に寄与する

「マツタロウの森」プロジェクト他の植林活動

*** 岡山県二酸化炭素森林吸収評価認証委員会より意見書を受領**



関西経済連合会が設置した「医療体制支援基金」へ寄付

経営理念の共有と実践（※KIZUNA活動）

- 2021年度よりサステナビリティ委員会、KIZUNA推進室を新設
- KIZUNA活動の継続により、根幹の揺らぐことのない経営を実践する
- リスク管理や内部統制制度、コンプライアンス、コーポレートガバナンス・コードへの取組みを徹底し、中長期的な収益性・生産性を高め、好循環につなげることで企業価値の向上と社会貢献に努める

※KIZUNAは、“ARAKAWA WAY 5つのKIZUNA”の略称であり、当社グループの大切にしている価値観・行動指針を明文化したもの

改めて安全を「まもる」大切さを共有し、安全文化を醸成していく



価値観・行動指針



集合研修
(KIZUNAワークショップ)

新規事業への取り組み

開発目標

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



強靱（レジリエント）なインフラ
構築、包摂的かつ持続可能な産業
化の促進及びイノベーションの推
進を図る

17 パートナシップで
目標を達成しよう



持続可能な開発に向けて実施手段
を強化し、グローバル・パート
ナシップを活性化する

荒川化学の取り組み

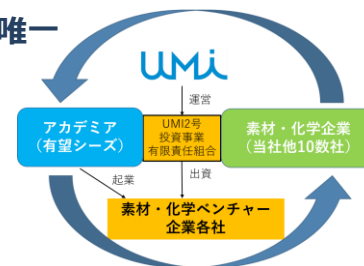
新規事業・新規テーマに関する

「社内テーマ提案・チャレンジャー育成」を開始



ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター社
（UMI）が運営するベンチャーファンドである
UMI2号投資事業有限組合への投資

⇒素材・化学産業に特化した日本唯一
のファンド



見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

荒川化学工業株式会社



参考資料

<会社概要>

- 会社概要 ■ 沿革 ■ ネバネバ！ロジンのチカラ ■ 明治9年 大阪 道修町で創業
- 広がるグローバルネットワーク

<第5次中期5カ年経営実行計画について>

- 経営理念とビジョン ■ 2030年のありたい姿 ■ 荒川化学の未来像（ビジョンの具現化）
- 優先的な重要課題（マテリアリティ）と5つのKIZUNA ■ 5つのKIZUNA／KIZUNA指標
- 事業ポートフォリオ改革 ■ 各セグメント計画説明資料 ■ 海外売上高伸長率 ■ 連結データ

<製品情報>

- 超淡色ロジン ■ 低誘電ポリイミド樹脂（PIAD） ■ 精密部品洗浄システム ■ ファインケミカル製品
- 電子材料用配合製品 ■ 精密研磨剤

<財務情報・その他>

- 総資産・有利子負債推移 ■ キャッシュフロー推移 ■ 売上原価・販売管理費推移
- ロジン価格の推移 ■ 株価推移 ■ 株式情報



会社概要

■ 2021年3月末現在

商 号	荒川化学工業株式会社
所 在 地	大阪府中央区平野町1丁目3番7号
代 表 者	取締役社長 宇根 高司
創 業	明治9年（1876年）
会 社 設 立	昭和6年（1931年）
資 本 金	3,343百万円
従 業 員 数	1,593名（連結）
主 要 取 引 先 （五十音順）	・ 王子ホールディングス ・ 関西ペイント ・ JSR ・ 東洋インキSCホールディングス ・ 日東電工 ・ リンテック



1926年（大正15年）商標登録

当時としてはモダンなアルファベット表記

沿革

1876年	(明治9年)	大阪で生薬商として創業
1914年	(大正3年)	鳴野工場を開設し、ロジンの製造開始
1928年	(昭和3年)	ロジン系塗料用樹脂の製造開始
1937年	(昭和12年)	ロジン系印刷インキ用樹脂の製造開始
1954年	(昭和29年)	製紙用薬品（サイズ剤）の製造開始
1967年	(昭和42年)	台湾に天立化学（現 台湾荒川化学）を設立
1977年	(昭和52年)	荒川林産化学工業(株)から荒川化学工業(株)に改称
1995年	(平成7年)	中国に梧州荒川化学を設立
1999年	(平成11年)	大証第二部に株式上場
2003年	(平成15年)	東証・大証第一部に株式上場 日本ペルノックス（株）（現 ペルノックス（株））が当社グループに加入
2004年	(平成16年)	中国に南通荒川化学、広西荒川化学を設立
2008年	(平成20年)	中国に広西梧州荒川化学を設立
2010年	(平成22年)	ダウ・ケミカル社のドイツの「アルコン」事業を取得
2011年	(平成23年)	中国に荒川化学合成（上海）有限公司を設立
2012年	(平成24年)	台湾に柏彌蘭科技股份有限公司（ポミラン・テクノロジー社）を設立
2014年	(平成26年)	台湾に日華荒川化学股份有限公司を設立
2015年	(平成27年)	山口精研工業（株）（名古屋）が当社グループに加入
2018年	(平成30年)	千葉アルコン製造（株）を設立 荒川化学合成（上海）有限公司 東莞分公司を開設
2019年	(令和元年)	荒川ケミカルベトナム社を設立

ネバネバ！ロジンのチカラ

ロジンとは松脂を精製してつくられる樹脂のこと。

松の木にキズをつけると、**ネバネバした松脂**がにじみ出てきます。



**世界で古くから
使われている天然資源！**

明治9年 大阪 道修町で創業

経営理念

個性を伸ばし
技術とサービスで
みんなの夢を実現する



商店時代の看板
□に玉で「カクタマ」と読む



木箱に入った国産ロジン

道修町は薬のまち！



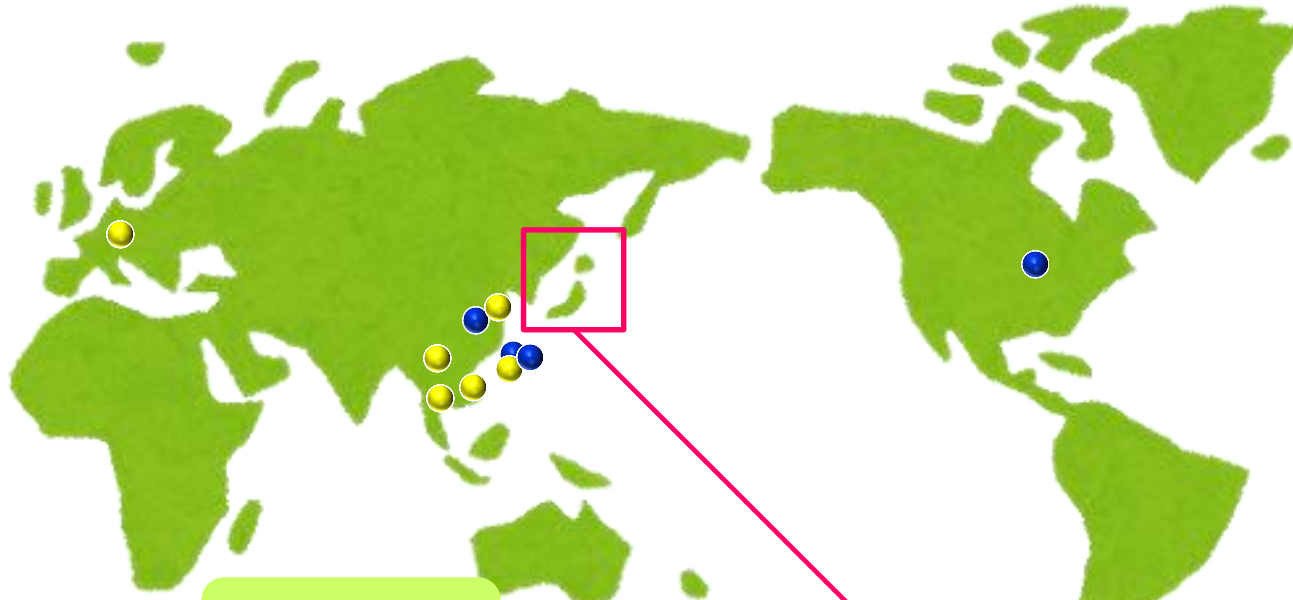
明治末期の道修町の様子



前列中央が荒川正太郎（初代社長）



広がるグローバルネットワーク



海外事業所

● 製造・販売拠点

荒川ヨーロッパ（ドイツ）
広西梧州荒川（中国）
南通荒川（中国）
荒川ケミカル（タイランド）
台湾荒川
荒川ケミカルベトナム社

● 販売拠点

荒川化学合成（上海）
荒川ケミカル（米国）
日華荒川（台湾）
ボミランテクノロジー（台湾）

国内事業所

製造拠点

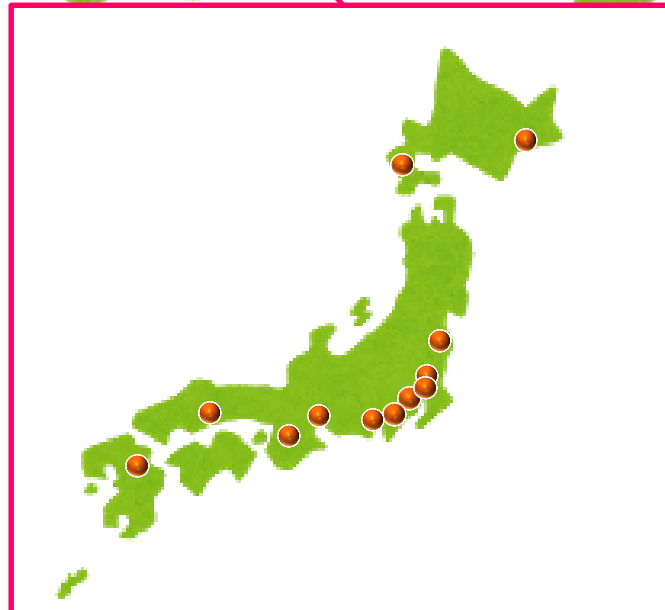
大阪工場
富士工場
水島工場
小名浜工場
釧路工場
鶴崎工場

研究所

研究所（大阪）
筑波研究所

販売拠点

本社
東京支店
名古屋支店
営業所3地域



大阪から世界へ！



国内関係会社

ペルノックス（秦野）
高圧化学工業（大阪）
山口精研工業（名古屋）
カクタマサービス（大阪）
千葉アルコン製造（千葉）

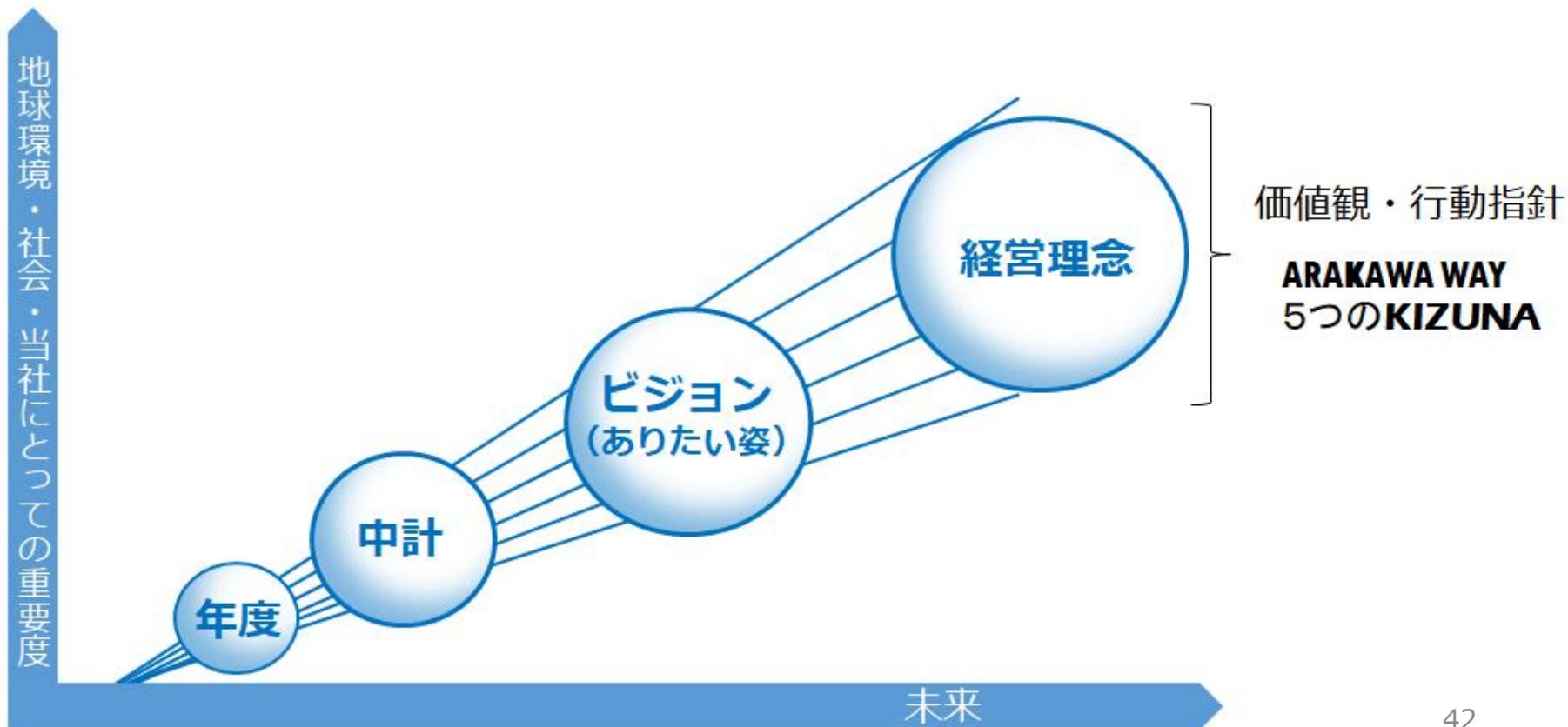
経営理念とビジョン

【経営理念】

個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する

【ビジョン】

つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER

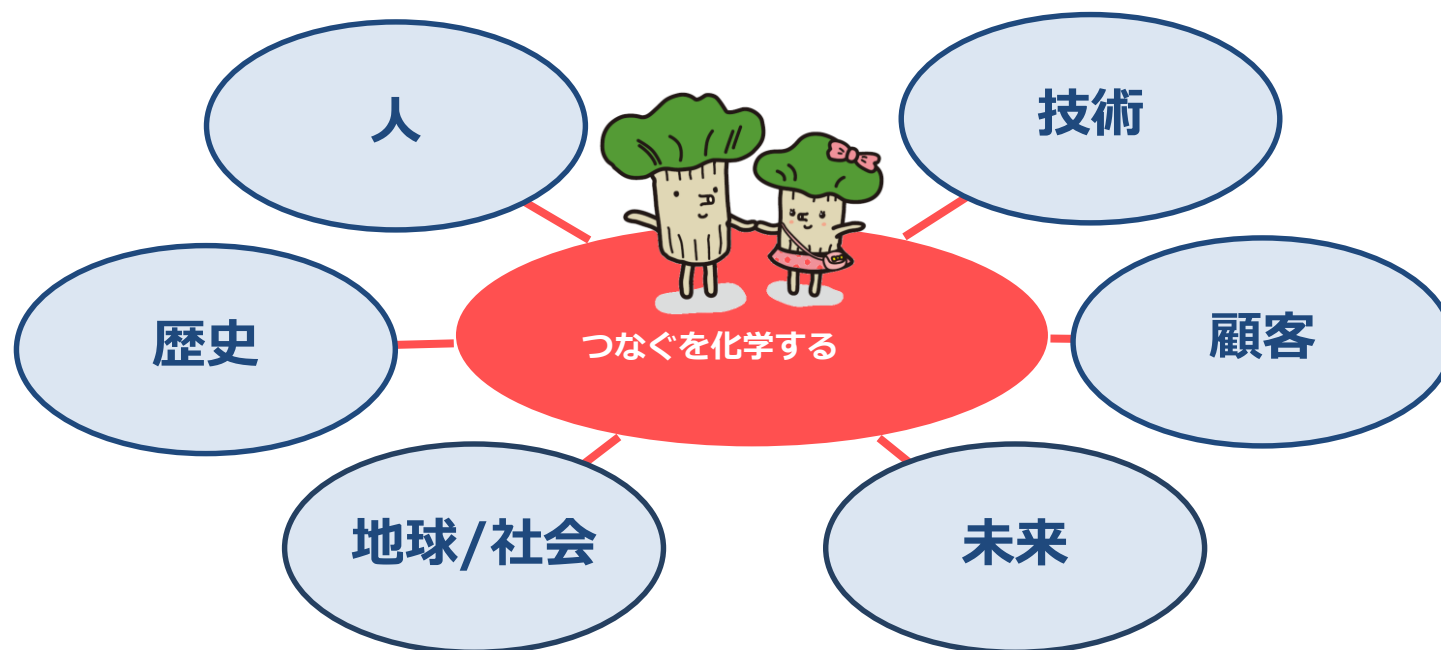


2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする環境に配慮した素材を活かし、
「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、
地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する

つなぐを化学する

SPECIALITY CHEMICAL PARTNER



荒川化学の未来像（ビジョンの具現化）

- 地球環境と社会の持続的な未来に貢献するエコシステムにしっかり入り込む
- ライフサイエンス関連などの素材・REALとDIGITALを下支えするケミカルパートナーへ変革

持続可能な地球環境と社会の実現

REAL

DIGITAL

ライフサイエンス

「ありたい姿」の実現

優先的な重要課題（マテリアリティ）と5つのKIZUNA

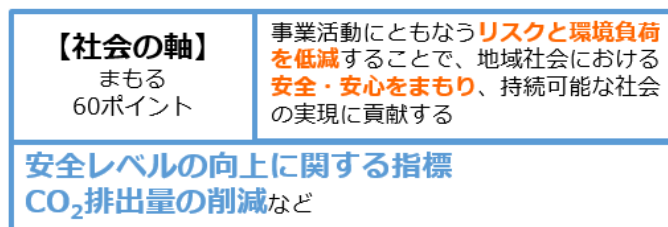
■ 優先的な重要課題として12項目を選定し、5つのKIZUNAとの紐付け

ステークホルダーにとっての関心・影響 高い 極めて高い 荒川化学グループにとっての重要度	ESG	優先的な重要課題	5つのKIZUNA
	E S	安全文化の醸成	【社会の軸】 まもる
	E	環境保全の強化	
	G	ガバナンスの強化	
	G	事業のグローバル化推進	【人の軸】 関わりあう
	S	ダイバーシティ&インクルージョン推進	【自身の軸】 主役になる
	S	働きがい改革	
	S	NEXT事業の創出	【技術の軸】 技術の伝承と革新
	E S	マーケティング力・研究開発力の強化	
	G	生産体制再構築	
	G	健全な財務基盤	【顧客の軸】 お客様と共に歩む
	E S	持続可能な調達と供給	
	G	品質マネジメントの強化	

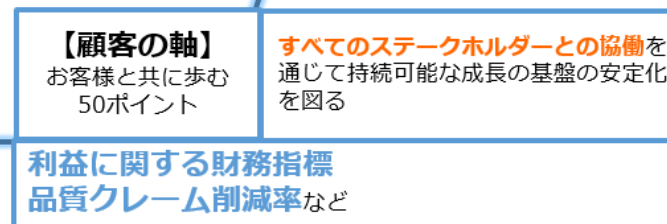
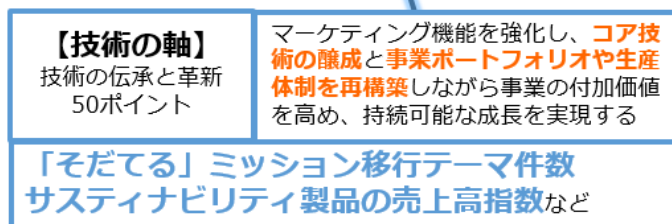
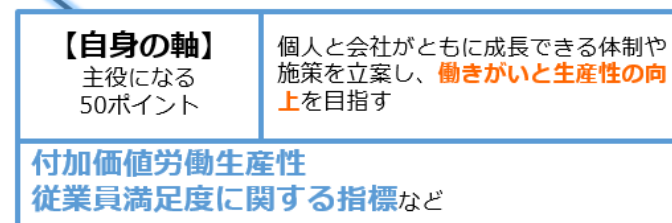
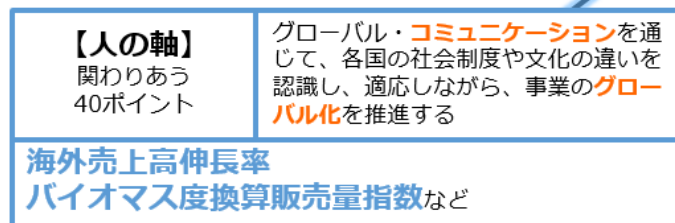
* 策定にあたってはSDG CompassやGRIスタンダードなどグローバルガイドラインを参照

5つのKIZUNA/KIZUNA指標

- 5つのKIZUNAとリンクした優先的な重要課題に対する指標を設定
- 達成度に応じてポイント付与（目標ポイントを目指し「ありたい姿」へ



KIZUNA指標詳細



事業ポートフォリオ改革

■コア技術・素材

荒川化学グループが提供できる価値に対して、**長期的に経営資源を投入し、事業ポートフォリオの中核とする**

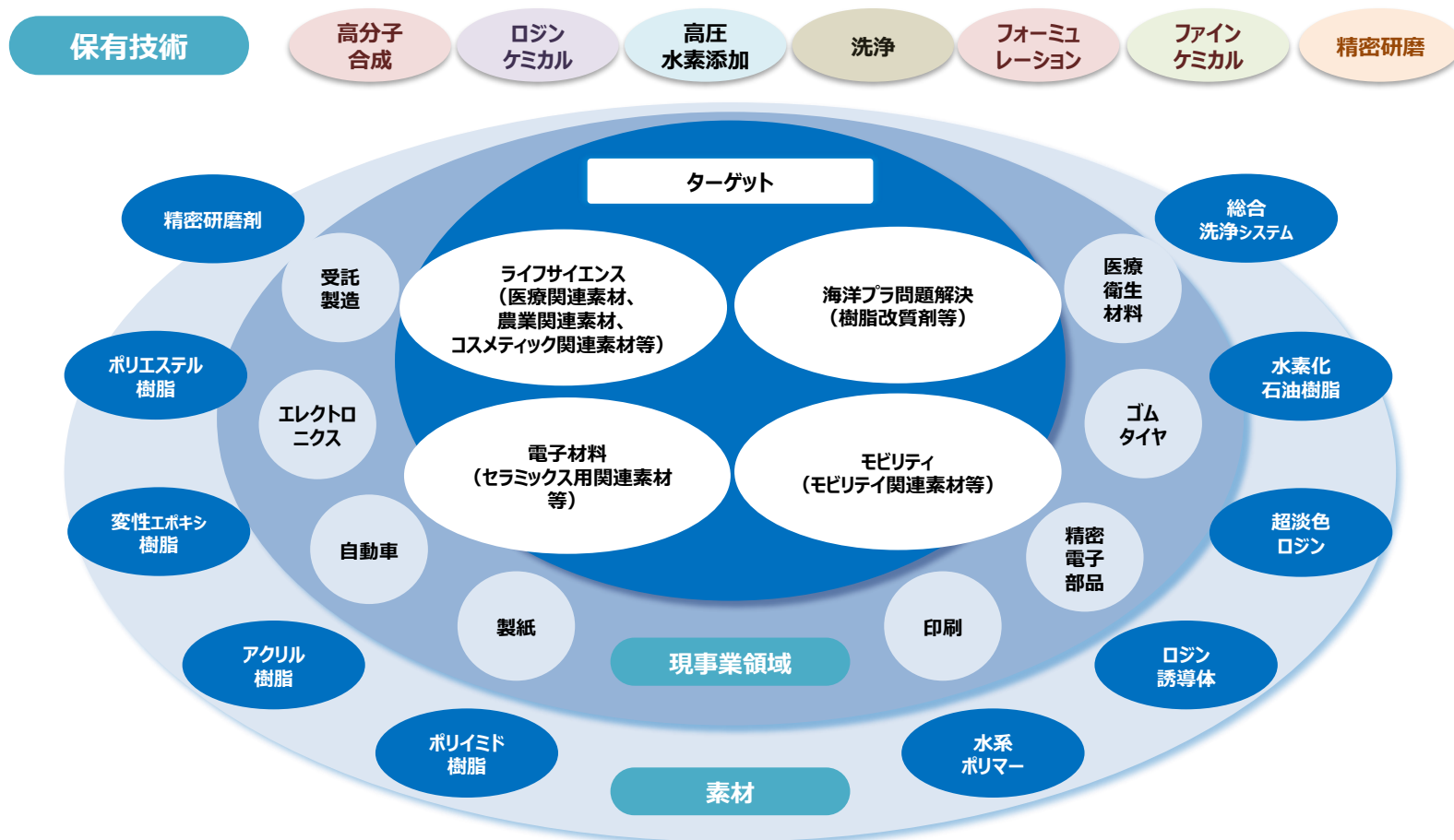
コア技術・素材	強み	方向性
水系ポリマー	重合技術	より一層環境に配慮した製品の開発 コア技術を活用した機能性材料としての新規用途展開
フォレストケミカル	原料調達 ロジン基礎技術 ロジン変性技術	持続可能な再生原料の有効活用 資源確保、高機能化 高付加価値用途への展開
水素添加	高圧水添技術・設備	グローバルでのブランド力の維持・強化 高圧水添技術の伝承と活用・展開 ブラッシュアップ
機能性材料*	スペシャリティ カスタマイズ	業界情報の集約 市場変化スピードへの対応、新規テーマ獲得 品質、生産設備の強化

* 機能性コーティング剤（光硬化型/熱硬化型樹脂）、低誘電ポリイミド樹脂、ファインケミカル、電子材料配合製品、精密研磨剤など

事業ポートフォリオ改革

■ 現事業領域・素材と今後のターゲット分野

現事業領域に加え、**新たな事業領域での事業創出**に挑戦



事業ポートフォリオ改革

■プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント

「みつける」「そだてる」「のばす」ミッションへ積極的に経営資源を投入

2020年度 時点

みつける

成長性

そだてる

売上高 10 億円
または事業利益 1 億円
を見込める事業

- ✓ 熱硬化型樹脂
- ✓ 低誘電ポリイミド樹脂
- ✓ 電池用材料

のばす

経営資源の集中投入により成長が
期待できる事業（事業利益率7%以上）

- ✓ 光硬化型樹脂
- ✓ 製紙薬品（海外）
- ✓ 水素化石油樹脂
- ✓ 精密部品洗浄剤

やめる/わたす/ すてる

採算性が見込めない事業

かせぐ

長期的に利益を生み出す事業
（事業利益黒字。利益率5%目処）

- ✓ 印刷インキ用・塗料用樹脂
- ✓ 製紙薬品（国内）
- ✓ ロジン系粘着接着剤用樹脂
- ✓ ファインケミカル
- ✓ 電子材料用配合製品
- ✓ 精密研磨剤

事業ポートフォリオ改革

2025年度 ありたい姿

みつける

成長性

そでてる

売上高 10 億円
または事業利益 1 億円
を見込める事業

- ✓ 第4次中計でみつけたテーマ
- ✓ 第5次中計でみつけたテーマ

のばす

経営資源の集中投入により成長が期待できる事業（事業利益率7%以上）

- ✓ 光硬化型樹脂
- ✓ 熱硬化型樹脂
- ✓ 製紙薬品（海外）
- ✓ 低誘電ポリイミド樹脂
- ✓ ファインケミカル
- ✓ 電池用材料
- ✓ 精密部品洗浄剤

やめる/わたす/
すてる

採算性の改善が見込めない事業
付加価値を生まない事業
コアに成り得ない事業

事業評価

かせぐ

長期的に利益を生み出す事業
（事業利益黒字。利益率5%目処）

- ✓ 印刷インキ用・塗料用樹脂
- ✓ 製紙薬品（国内）
- ✓ ロジン系粘着接着剤用樹脂
- ✓ 水素化石油樹脂
- ✓ 電子材料用配合製品
- ✓ 精密研磨剤

ターゲット分野

- ・ ライフサイエンス
（医療関連素材、農業関連素材
コスメティック関連素材など）
- ・ 海洋プラスチック
問題解決関連素材
- ・ セラミックス用関連素材
- ・ モビリティ関連素材

事業ポートフォリオ改革

- 新規事業創出の仕組みを確立し、ターゲット分野への参入に挑戦
- AI・MI活用による研究開発活動の効率化を推進

新規分野での実績化

ライフサイエンス
医療関連素材、農業関連素材
コスメティック関連素材など

海洋プラスチック
問題解決関連素材

セラミックス用
関連素材

モビリティ
関連素材

など

- ・ マーケティング機能の強化
- ・ 社内テーマ提案・チャレンジャー育成の推進
- ・ 外部ソースの有効活用

みつける



成長性

そだてる	のばす
やめる/わたす /すてる	かせぐ

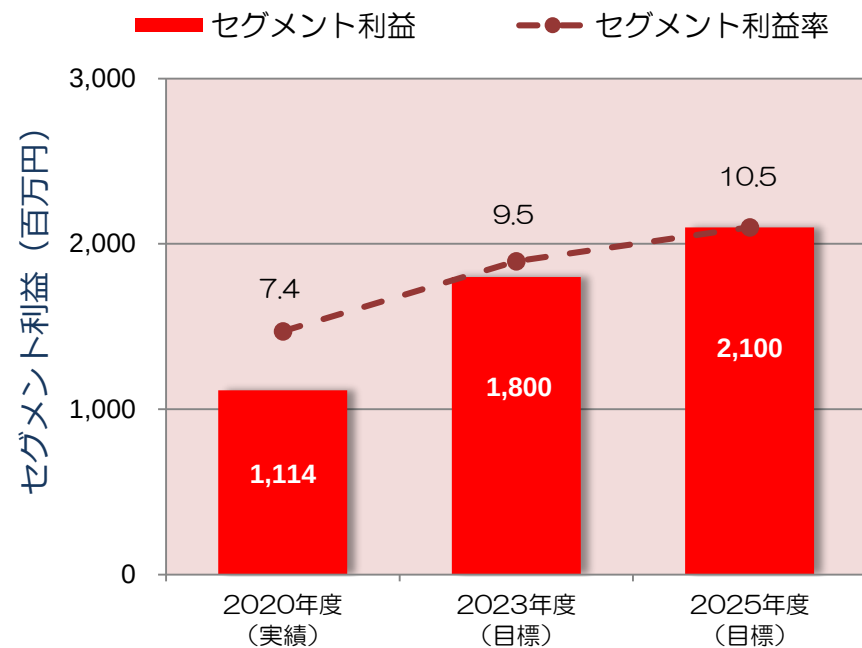
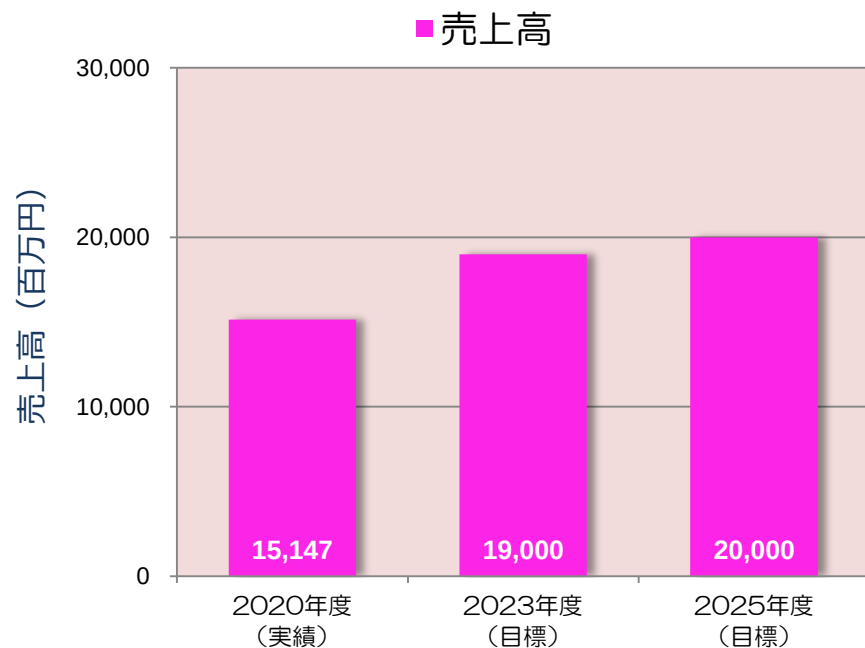
収益性



機能性コーティング事業

高収益・注力

- 機能性コーティング剤の強固な事業基盤構築によるさらなる拡大
- 印刷インキ用樹脂や塗料用樹脂は、採算性の向上を推し進めるとともに、コア技術を活かした新規テーマの創出に注力

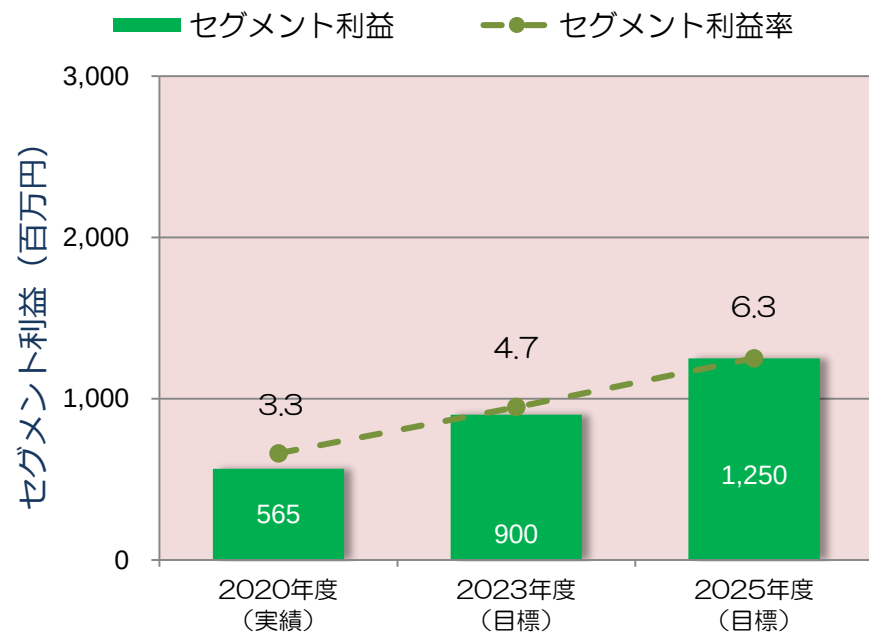
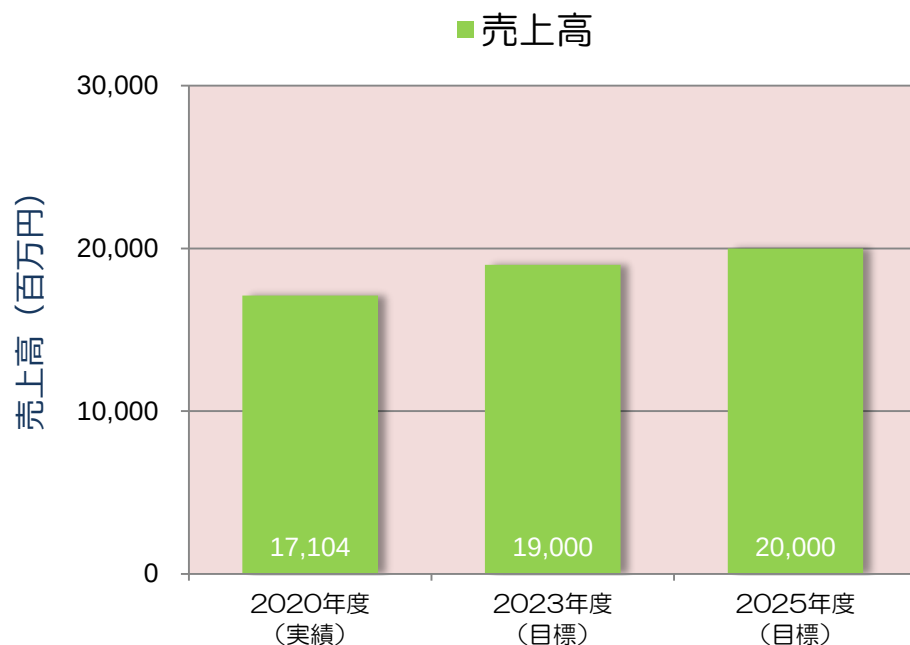


製紙・環境事業

ASEAN拡大

■ 推進中の海外事業の拡大戦略を加速するとともに、国内事業は採算性の向上を強力に推し進め、コア技術を活かした新規テーマの創出に注力

- ・ ASEANを中心としたアジア地域での紙力増強剤の拡大
- ・ テーマの選択と集中、生産体制の最適化による国内事業の採算性向上
- ・ 水系ポリマーを活用した地球環境と社会へ貢献できる新規テーマの創出



粘接着・バイオマス事業

グローバル基盤・展開

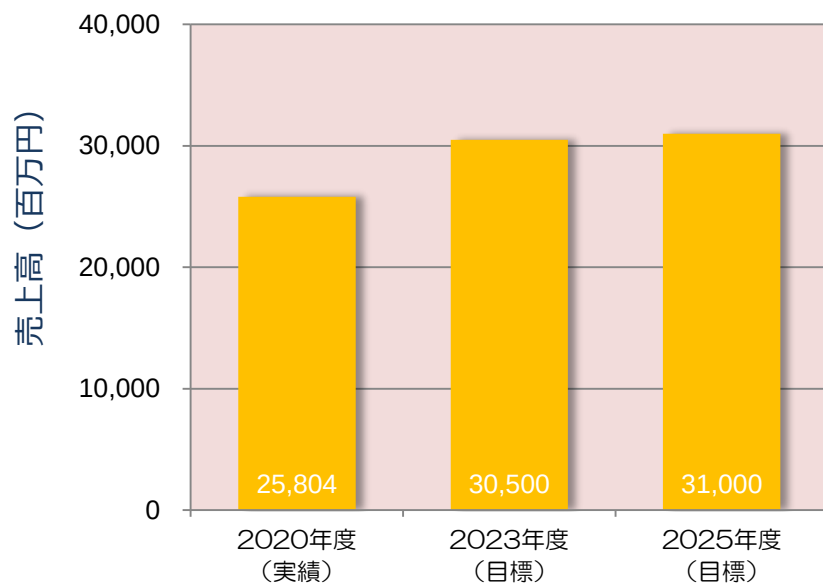
■「ロジンの荒川」から「Global Pine Chemicals Partner」への深化を目指し、

松脂資源と関連事業の持続性を確保

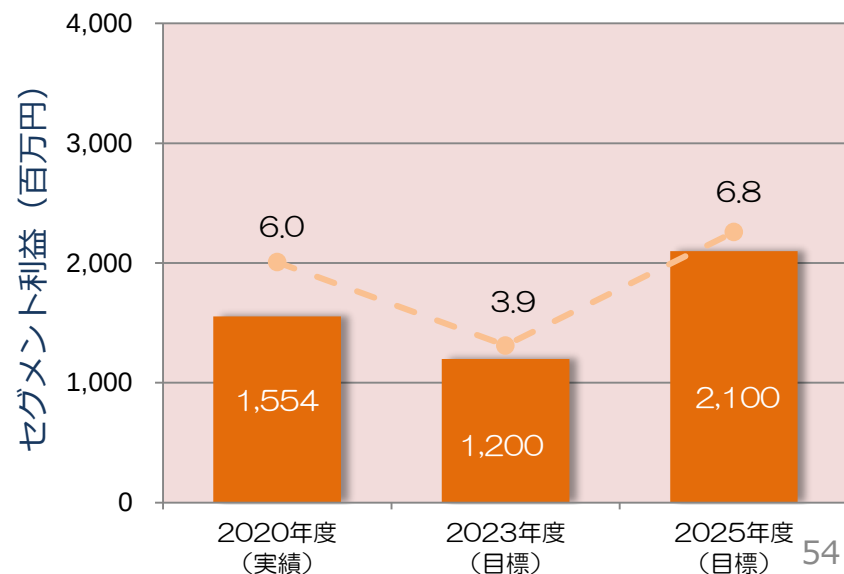
■水素化石油樹脂「ARKON」はアジア唯一のグローバルサプライヤーとして名実ともにグローバルでのブランド力を維持・強化

- ・バイオマス素材としての利点を活かしたロジン誘導体事業の拡大と持続性確保
- ・「ARKON」3拠点体制（水島、千葉、ドイツ）の特長を活かした供給体制構築と拡販

■売上高



■セグメント利益 ●セグメント利益率

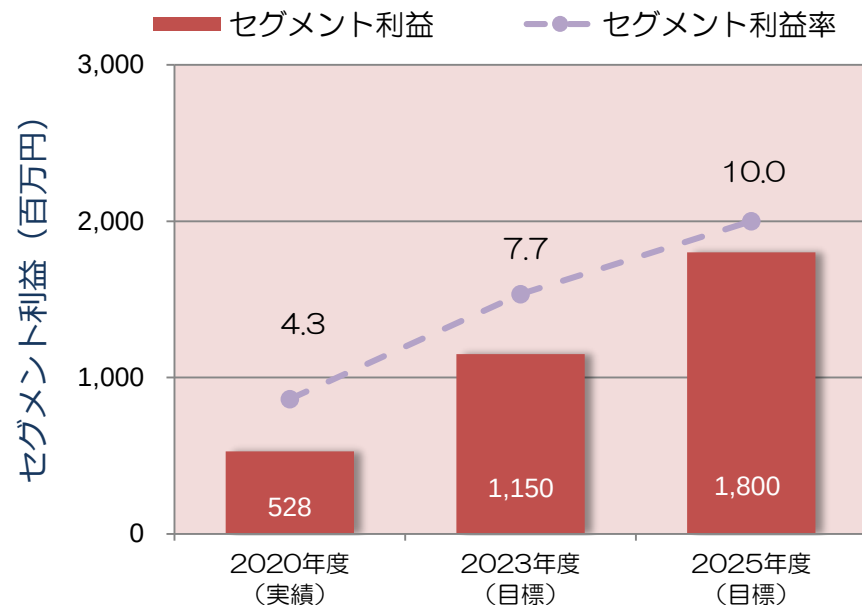
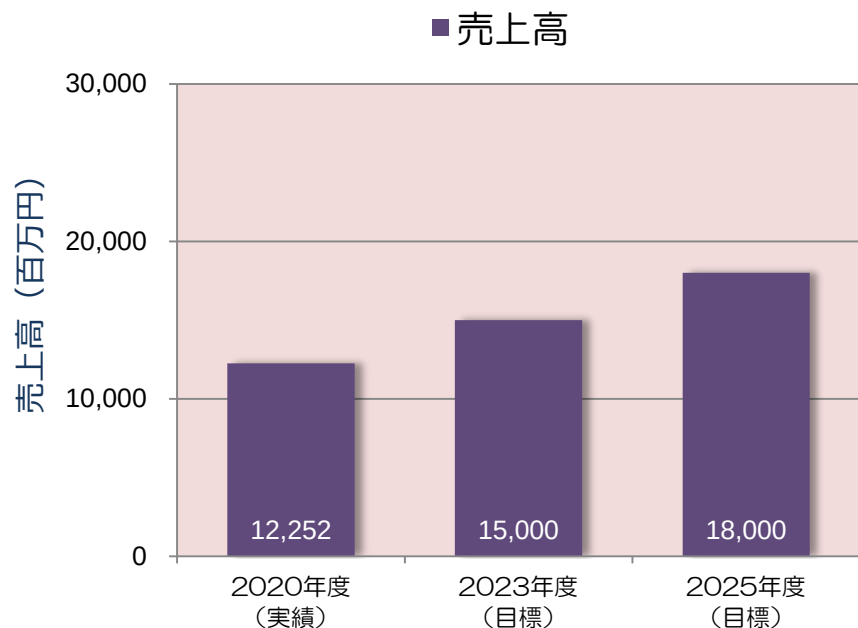


ファイン・エレクトロニクス事業

拡大・新規投資

■ 通信高速大容量化、自動車電動化をメインターゲットとして、市場ニーズに合わせて関係会社を含む関連事業間で素早く連携できる仕組みを確立

- ・ 海外の半導体用途および非フラックス洗浄用途での洗浄剤「パインアルファ」の拡大
- ・ 5Gスマートフォン用高周波FPC市場での「PIAD」の拡大
- ・ 先端材料分野での拡販と新規テーマの獲得による「ファインケミカル製品」の拡大
- ・ センサー市場を中心とした伸長分野での「電子材料用配合製品」の拡大
- ・ HDD、SAWデバイス市場での「精密研磨剤」のさらなる拡大

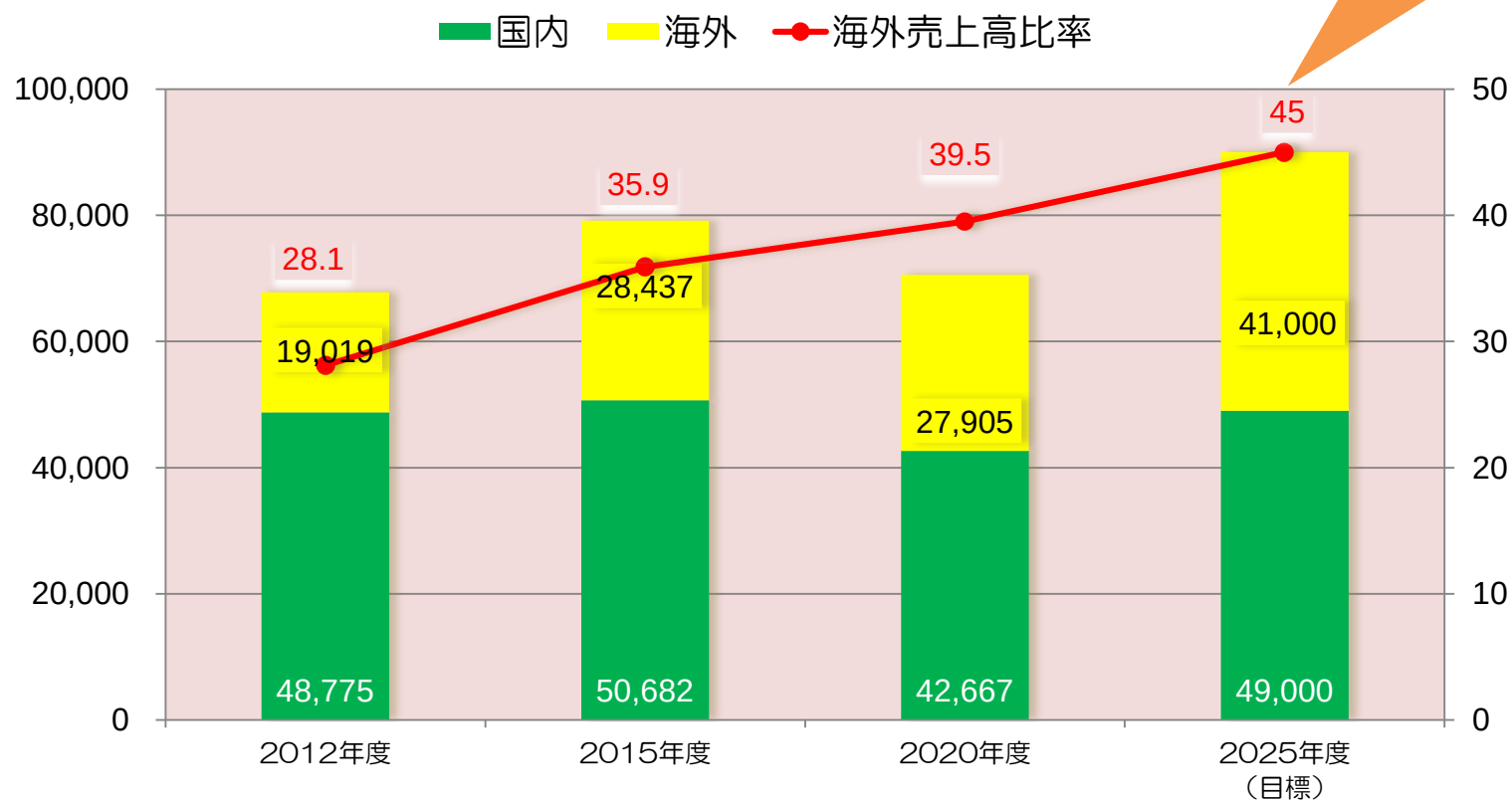


海外売上高伸長率

さらなるグローバル化を推進し、
2020年度比海外売上高伸長率50%以上を目指す

新拠点 約75億円

- ・千葉アルコン製造
- ・荒川ケミカルベトナム社



連結データ

	4次中計期間実績 (2016年度～2020年度)	5次中計期間 (2021年度～2025年度)	備考
総投資金額 (定常投資含む)	約300億円(5年間累計)	約250億円(5年間累計)	生産能力増強 ・荒川ケミカルベトナム社 ・機能性コーティング剤 ・ファインケミカル事業 M&Aなど
減価償却費	約30億円(最終年度)	約47億円(最終年度)	-
ROE	4.0%(最終年度)	7.0%以上(最終年度)	-
配当性向	30%を目途とする	40%を目標とする	成長戦略の実現による利益の拡大を通じた配当額の増加と、配当の「安定的、継続的、かつ積極的」な実施という両面を勘案して、配当性向40%を目標とする

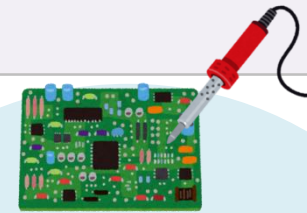
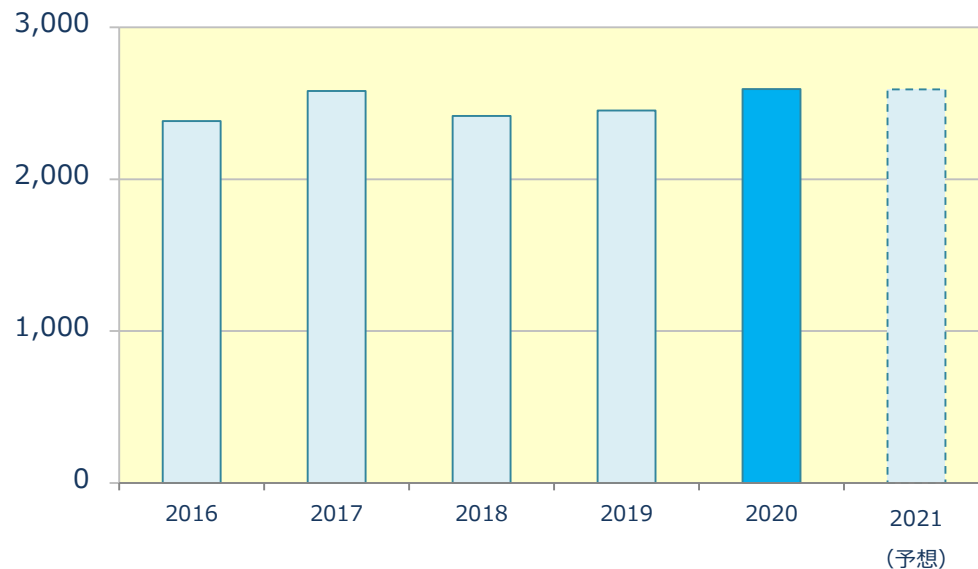
超淡色ロジン

粘接着・バイオマス

- **オンリーワン**製品（琥珀色のロジンを高圧水素化技術により無色化）
- 鉛フリーはんだ用フラックスの**業界標準**
- **ライフサイエンス**分野にも進出
- 超淡色**液状**ロジンエステル開発



売上高
(百万円)



■ 鉛フリーはんだ用フラックス



■ 医療用貼付剤



■ 3Dプリンター関連部材

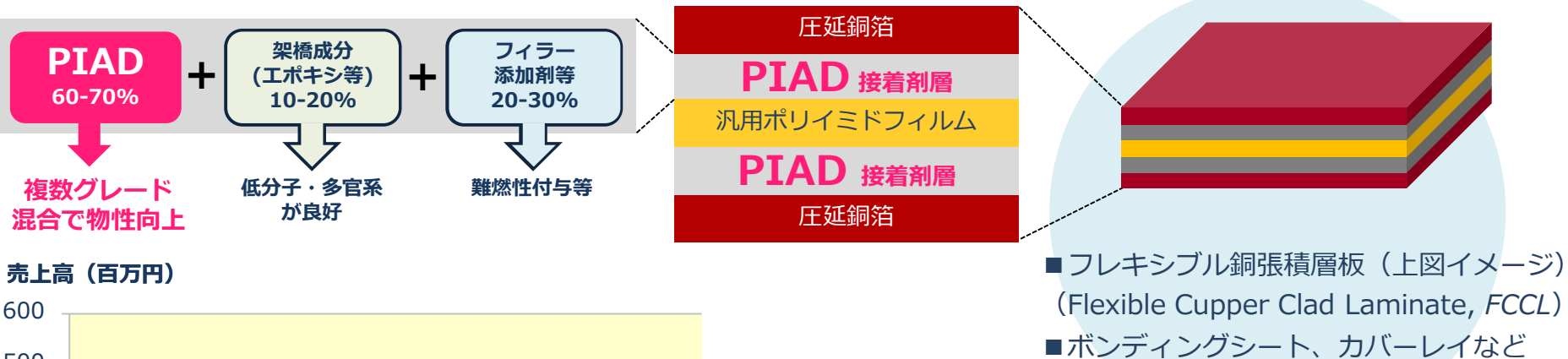
■ 光学フィルム関連部材

- **ほぼ無色、不純物が少ない**
- **熱安定性がよい**

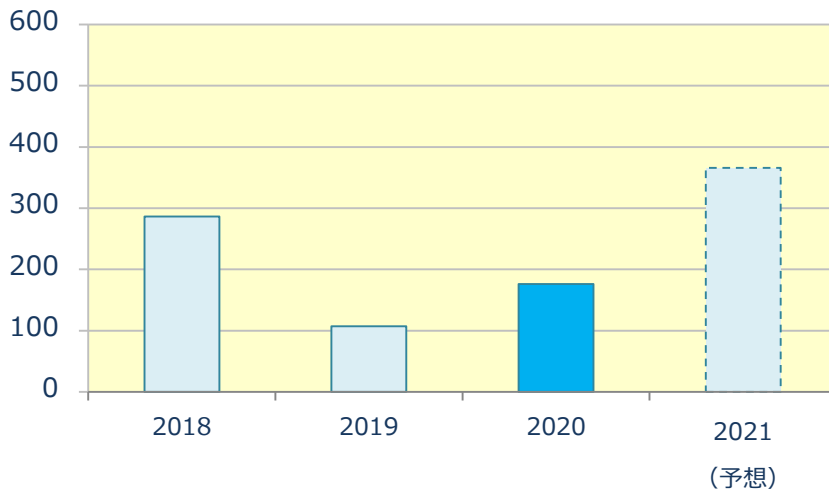
低誘電ポリイミド樹脂 (PIAD)

ファイン・エレクトロニクス

- 低誘電、高耐熱、高接着性、柔軟性（独自のポリマー重合技術）に優れる高付加価値製品
- 処理データの高速化、大容量化（高周波化）に伴う電気信号の伝送損失を抑える
⇒ 次世代通信技術「5G」で使用されるミリ波に対応可能なフレキシブル基板向け低誘電接着剤として注目される



売上高（百万円）



製品外観
（液体）

架橋成分や
フィラーなど
配合し、熱硬化



硬化後

精密部品洗浄システム

ファイン・エレクトロニクス

■ 2019年6月

中国販売子会社に洗浄実験室を有する東莞分公司を開設

⇒精密部品洗浄事業の中国国内でのニーズに対し、

営業体制の強化および迅速なソリューション体制の提供

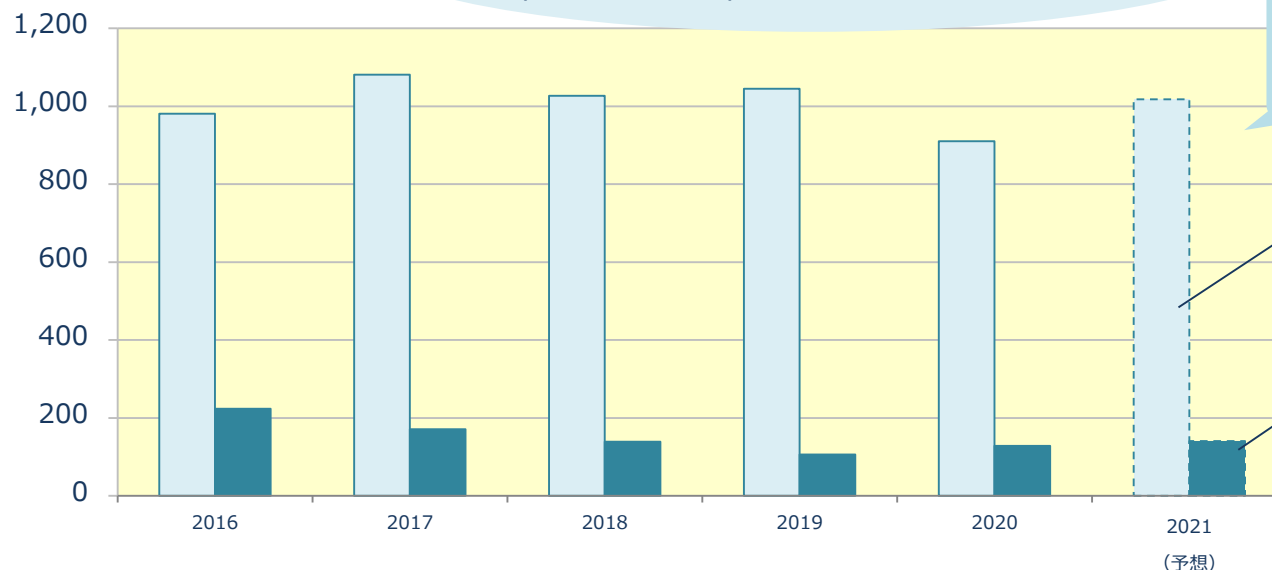
■ 廃水ゼロを目指した技術開発

洗浄実験室



売上高
(百万円)

■ 実装基板, FC, HDDハブ, カメラモジュール,
LED, WL-CSP, パワーデバイスなど



新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた車載向けの販売が回復基調の見込み

洗浄剤 パインアルファ

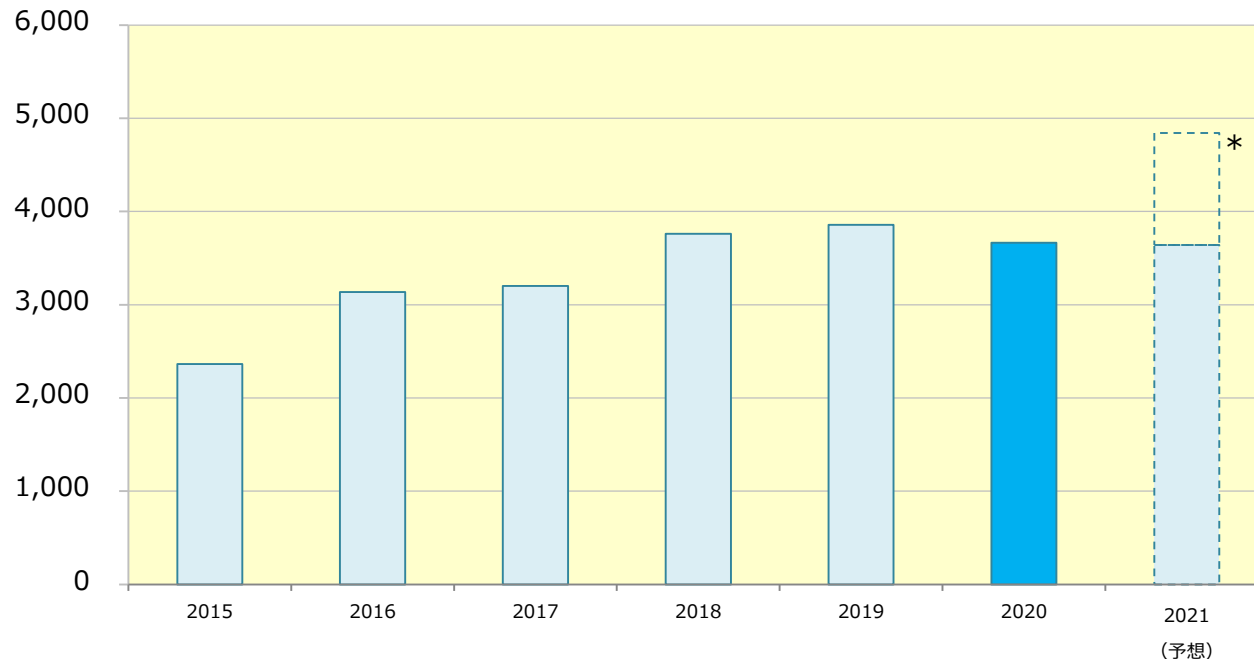
洗浄装置

ファインケミカル製品

高圧化学工業

- ファインケミカル製品(中間素材)を**高度な品質管理体制下**で受託製造
- 耐腐食性高圧反応設備（**ハステロイ製**）で高付加価値化
⇒アルカリから酸条件下の広範囲のpH域での使用に対応でき、通常の材質では腐食を伴う反応でも生産が可能に

売上高
(百万円)



- 電子材料用途
- 医薬品用途

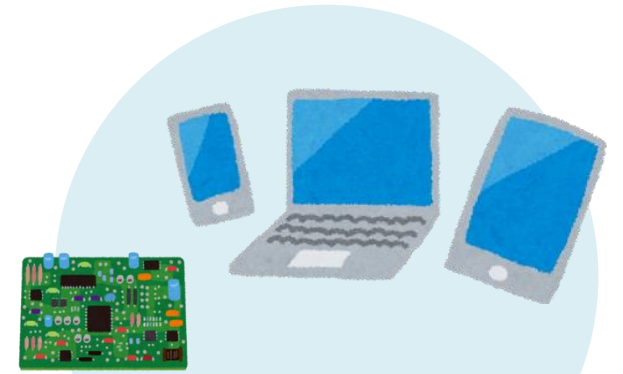
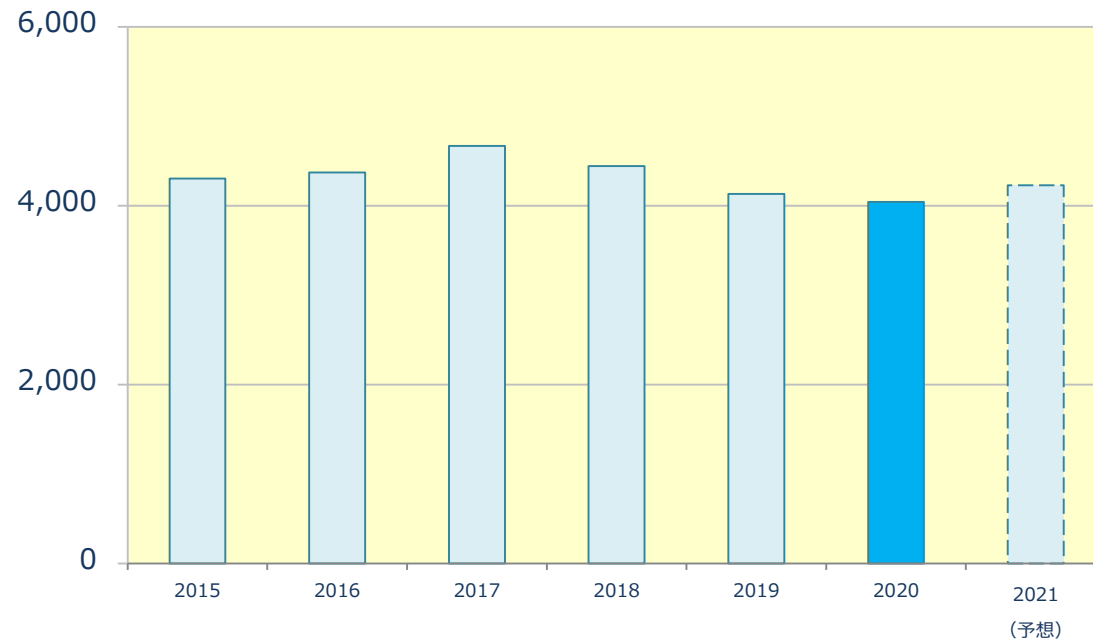
* 新収益基準の減少分

電子材料用配合製品

ペルノックス

■ エポキシ樹脂、シリコン樹脂などの樹脂と フィラーの配合・分散技術に強み

売上高
(百万円)



- 導電性材料（タッチパネル用銀ペースト）
- エポキシ樹脂製品

精密研磨剤

山口精研工業

業界動向

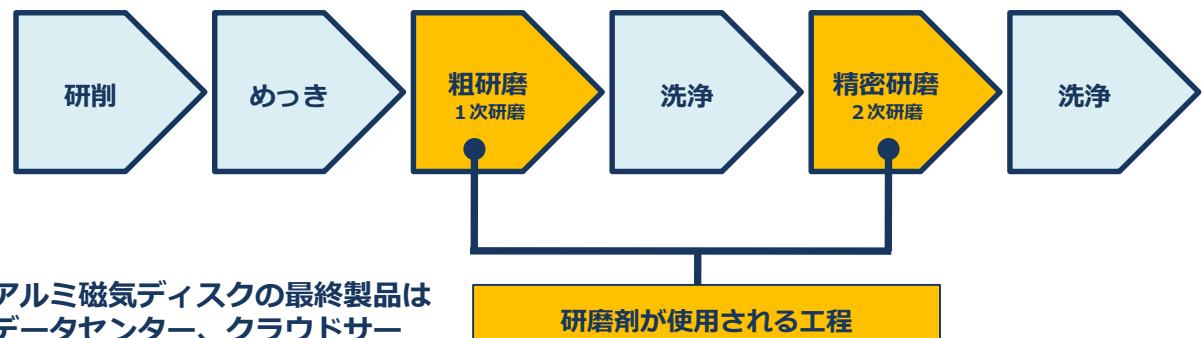
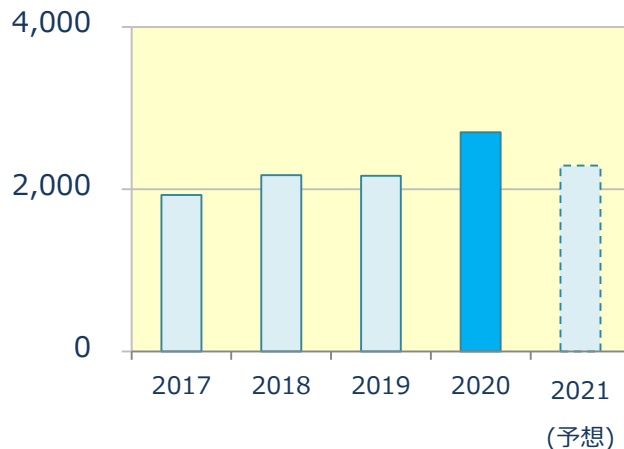
ノートPC等の基板市場はSSDが侵食も、大容量化が進むデータセンター市場はHDDの需要拡大。HDD基板は高容量のための薄型化、面品質の向上とコスト削減でアルミ基板とガラス基板がしのぎを削っている。

山口精研

- アルミ磁気ディスク用研磨剤を主体に各種金属などの鏡面研磨剤を扱う
- 薄型化に対応した研磨剤開発に注力



売上高
(百万円)

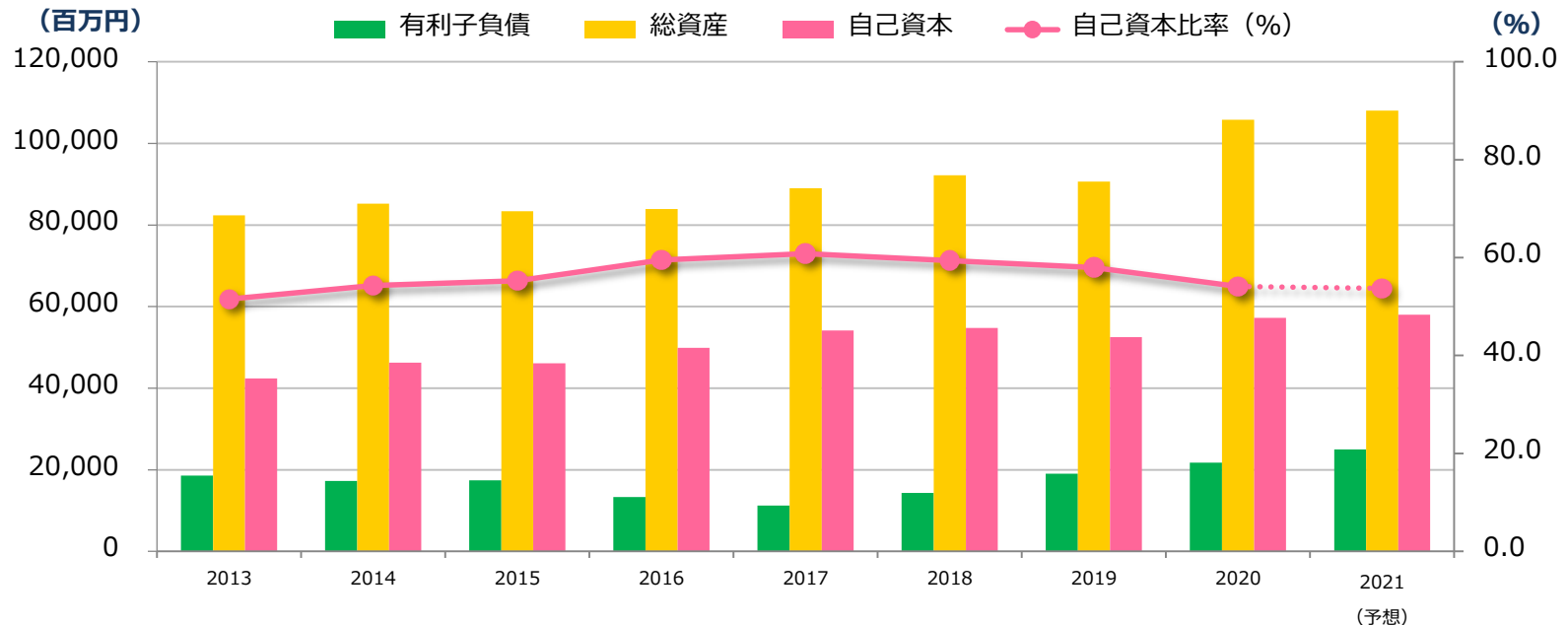


総資産・有利子負債推移

(百万円)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 (予想)
有利子負債	18,605	17,275	17,426	13,300	11,269	14,349	19,045	21,789	25,000
総資産	82,342	85,245	83,380	83,898	89,019	92,174	90,600	105,757	108,000
自己資本	42,408	46,252	46,129	49,915	54,123	54,747	52,546	57,228	58,000
自己資本比率 (%)	51.5	54.3	55.3	59.5	60.8	59.4	58.0	54.1	53.7
有利子負債自己資本倍率 (D/Eレシオ) (倍)	0.44	0.37	0.38	0.27	0.21	0.26	0.36	0.38	0.43

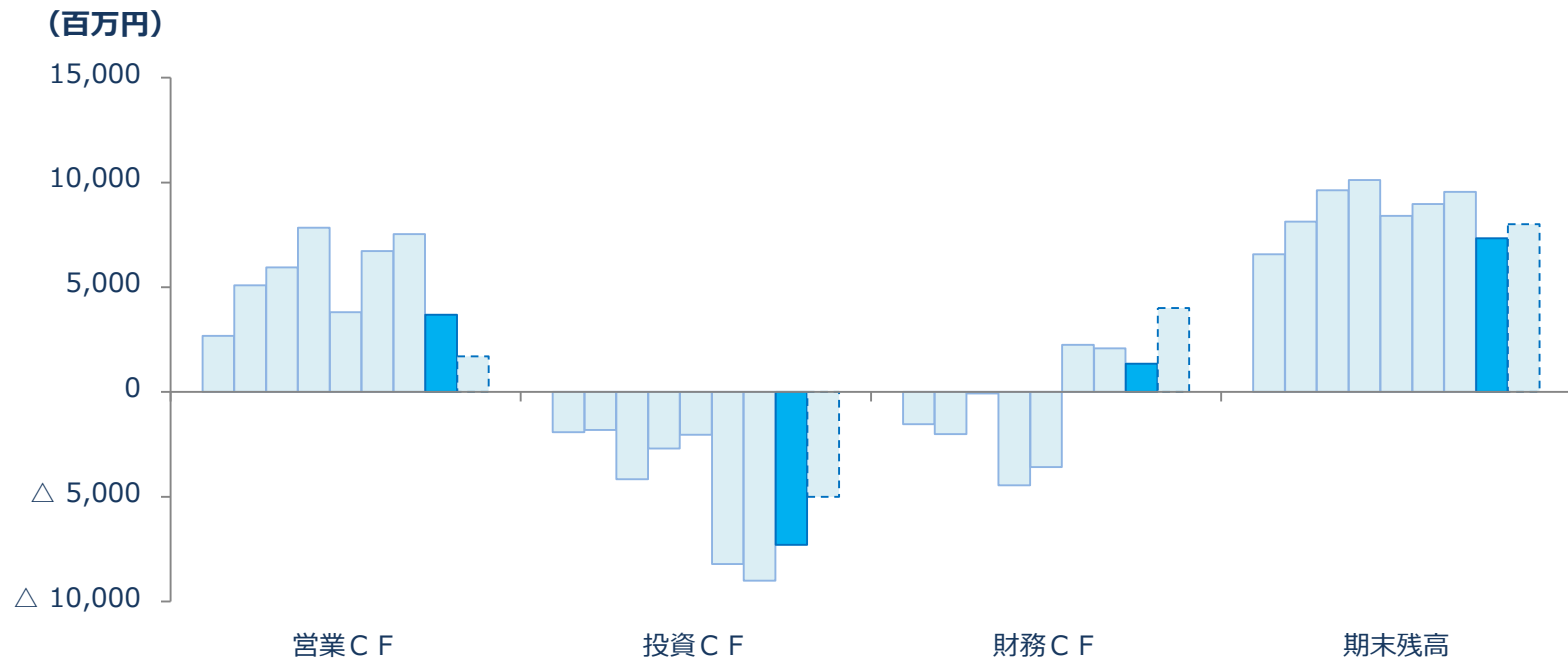
* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。



キャッシュフロー推移

(百万円)

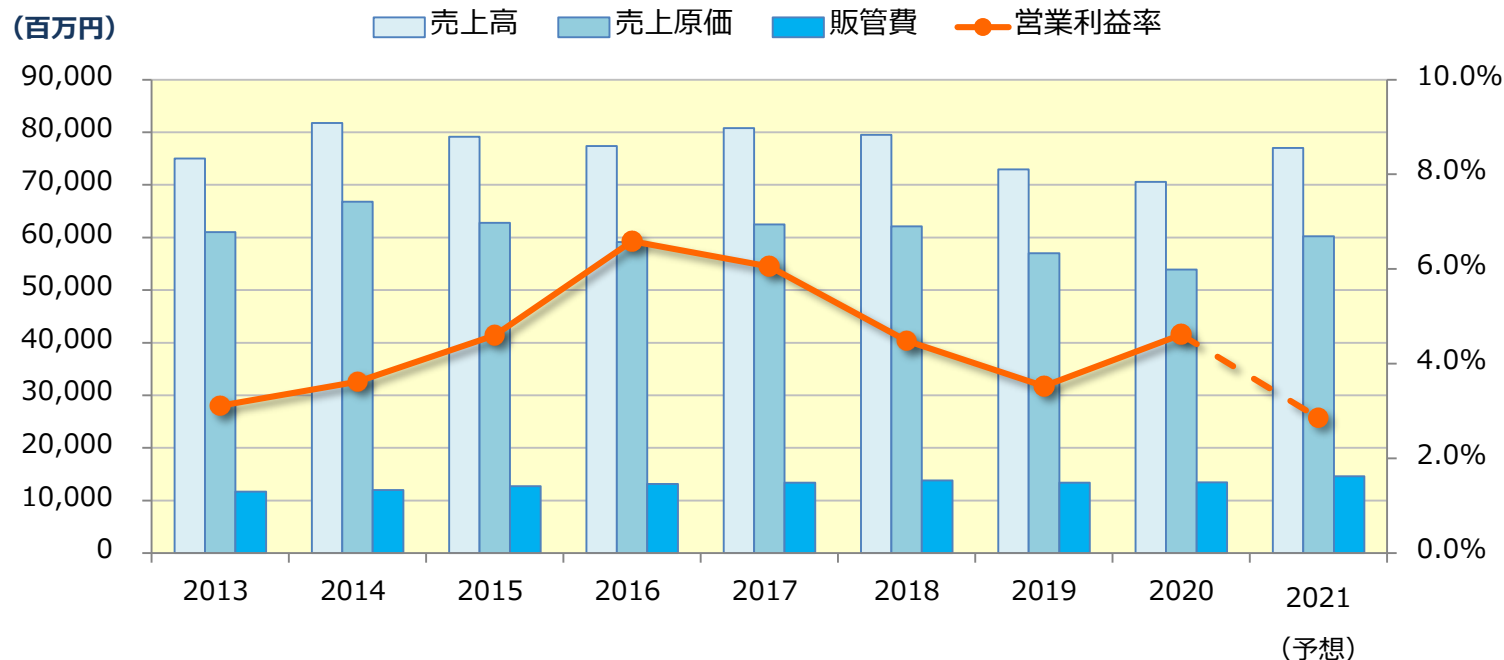
年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 (予想)
営業CF	2,671	5,094	5,941	7,843	3,808	6,728	7,534	3,685	1,700
投資CF	△ 1,926	△ 1,810	△ 4,163	△ 2,698	△ 2,048	△ 8,208	△ 9,001	△ 7,298	△ 5,000
財務CF	△ 1,538	△ 2,017	△ 75	△ 4,452	△ 3,586	2,243	2,084	1,354	4,000
期末残高	6,576	8,136	9,622	10,118	8,404	8,970	9,545	7,342	8,000



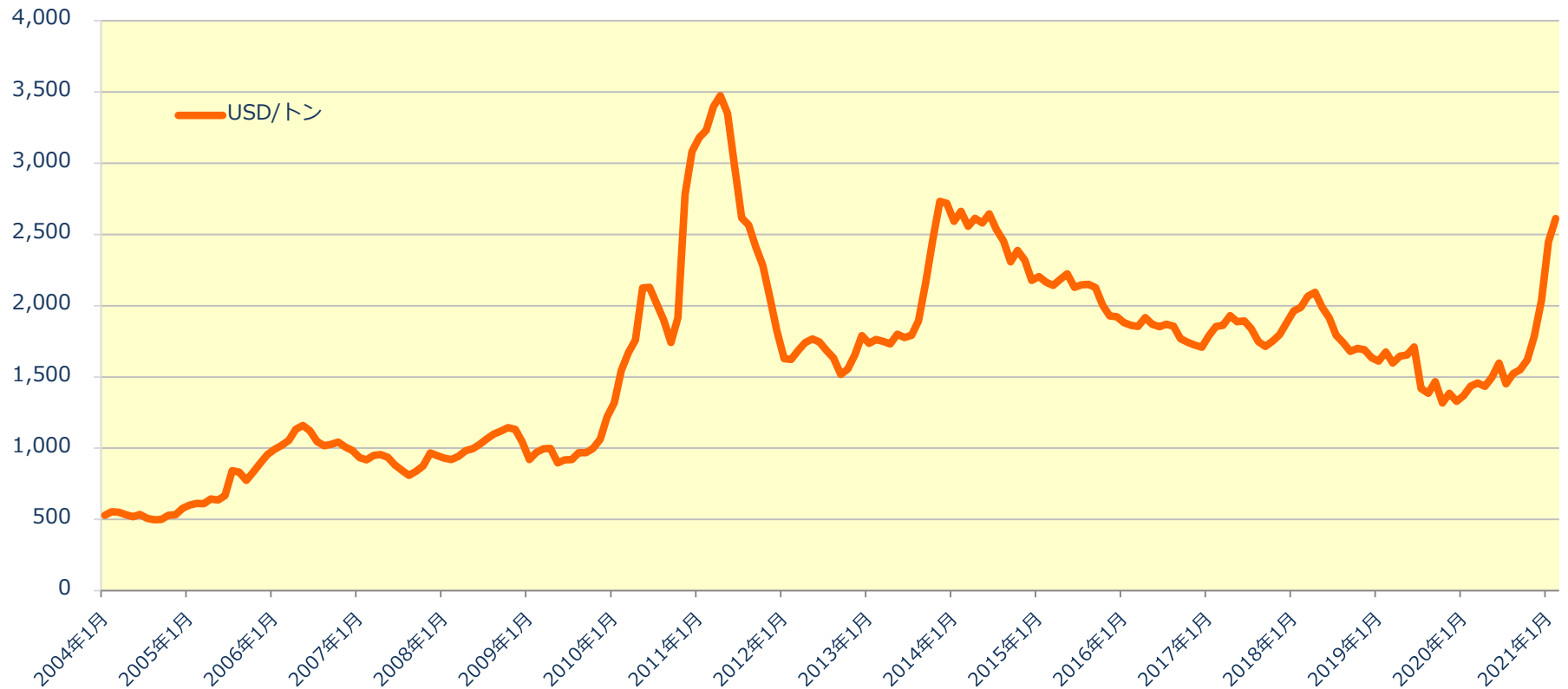
売上原価・販売管理費推移

(百万円)

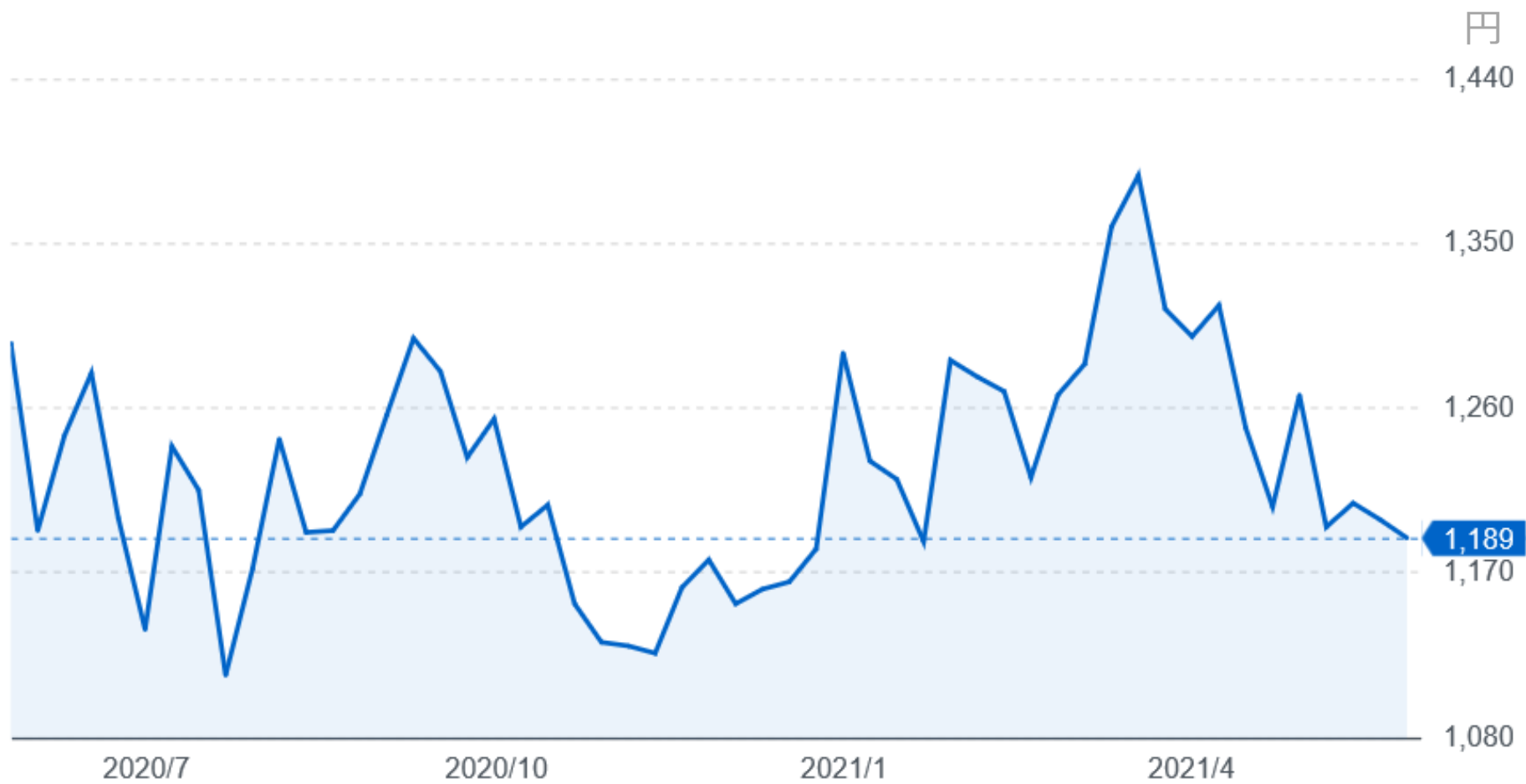
年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021 (予想)
売上高	75,025	81,742	79,119	77,380	80,782	79,501	72,967	70,572	77,000
売上原価	61,028	66,777	62,757	59,111	62,478	62,123	57,014	53,884	60,200
販管費	11,662	12,004	12,722	13,173	13,410	13,813	13,378	13,431	14,600
営業利益	2,335	2,961	3,639	5,095	4,892	3,564	2,574	3,257	2,200
営業利益率	3.1%	3.6%	4.6%	6.6%	6.1%	4.5%	3.5%	4.6%	2.9%
売上原価率	81.3%	81.7%	79.3%	76.4%	77.3%	78.1%	78.1%	76.4%	78.2%
販管費率	15.5%	14.7%	16.1%	17.0%	16.6%	17.4%	18.4%	19.0%	19.0%



ロジン価格の推移



株価推移



株式情報

証 券 コ ー ド	4968
決 算 期	3月
上 場 取 引 所	東証1部
単 元 株	100 株
株 価	1,189 円 (2021年5月31日15 : 00時点)
最 低 所 要 金 額	118,900 円
配 当 利 回 り	4.04%
P E R	16.27 倍
P B R	0.41 倍
発 行 済 株 数	20,652,400 株 (2021年3月末現在)
長期発行体格付	A - : 安定的 (J C R)